

令和7年度実施
男女共同参画に関する市民意識調査報告書



山鹿市

令和8年3月

目 次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査対象及び抽出方法	1
3.	実施期間	1
4.	実施方法	1
5.	回収状況	1
II	回答者の属性	2
III	調査結果	6
1.	男女共同参画の意識について	6
(1)	男女の地位の平等感	6
(2)	固定的性別役割分担意識	14
(3)	男女共同参画に関する用語の周知度	15
2.	仕事・家庭生活・地域生活の両立について	17
(1)	生活における優先度の「理想」と「現実（現状）」	17
(2)	家庭生活における「理想」と「現実（実際）」	19
(3)	男性が家庭・地域活動へ参加するために必要なこと	28
3.	女性の社会参画について	30
(1)	政策の企画立案や方針決定の場への女性の参画拡大	30
(2)	企画立案や方針決定の場に女性が少ない理由	32
(3)	企画立案や方針決定の場での参画意識	34
(4)	発言を控えたい理由	35
(5)	女性の働き方について	36
(6)	女性が離職後、再就職するために必要なこと	39
4.	配偶者等からの暴力について	42
(1)	被害経験の有無	42
(2)	被害の相談	44
(3)	相談できなかった理由	46
5.	防災と男女共同参画について	48
(1)	避難所運営などにおける女性への配慮や支援	48
6.	男女共同参画の推進について	50
(1)	行政が積極的に取り組むべきこと	50

I 調査概要

1. 調査目的

「第4次山鹿市男女共同参画計画」を策定するにあたり、市民意識の現状を把握し、今後の施策に反映させるために本調査を実施しました。

2. 調査対象及び抽出方法

現役世代の意見を施策に反映させることを目的に、山鹿市在住の満18歳から59歳の男女2,000人を対象とし、住民基本台帳から無作為抽出法により抽出しました。

3. 実施期間

令和7年11月10日から12月9日までの31日間

4. 実施方法

郵送による配布、郵送またはインターネットによる回答

5. 回収状況

配布数 2,000、回収数 583（郵送 363・WEB220）、有効回収数 583、有効回収率 29.2%

《本報告書の留意点》

※回答結果は、少数第2位を四捨五入して、それぞれの割合を示しています。

※複数回答（複数の選択肢から2つ以上選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対するそれぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

※図表中に「無回答」とあるのは、回答が示されていないものを指します。

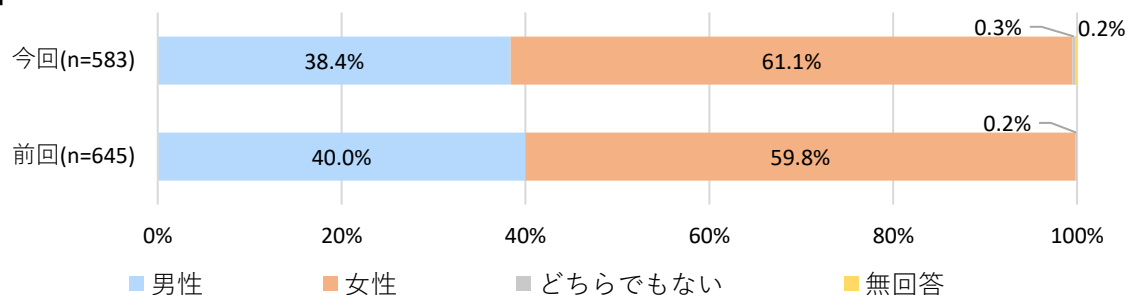
※本文中、また図表内の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

※図表中にある他調査との比較は、次の調査の内容を抽出しています。

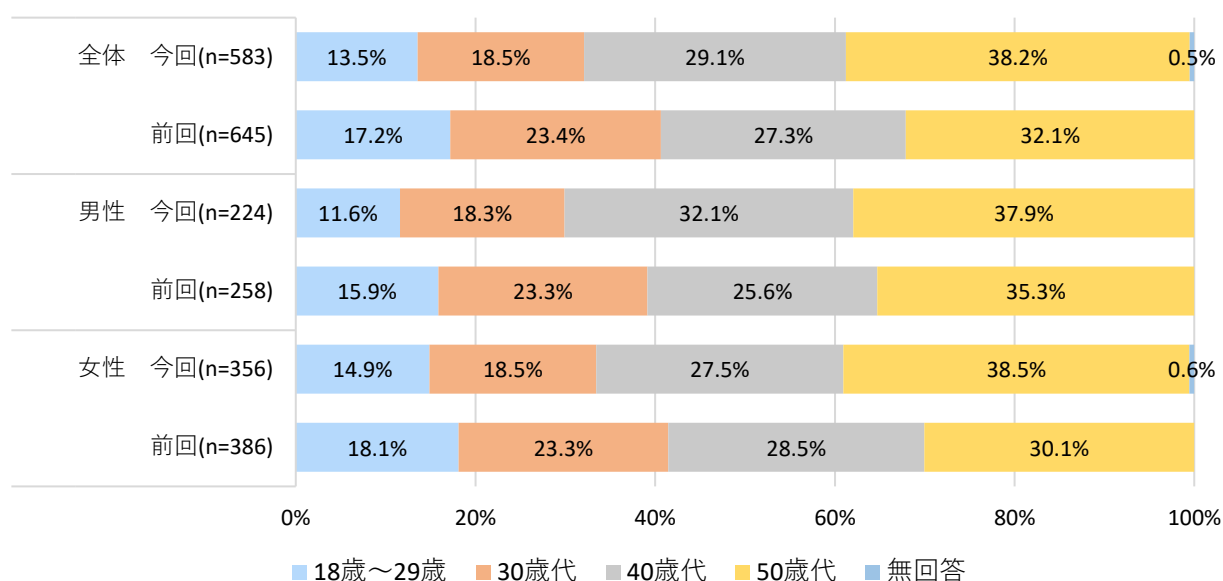
- ・前回調査は山鹿市「男女共同参画に関する市民意識調査」（令和3年度）から
- ・熊本県調査は熊本県「令和6年度 男女共同参画に関する県民意識調査」から
- ・内閣府調査は「男女共同参画に関する世論調査」（令和6年度）から

Ⅱ 回答者の属性

【性別】

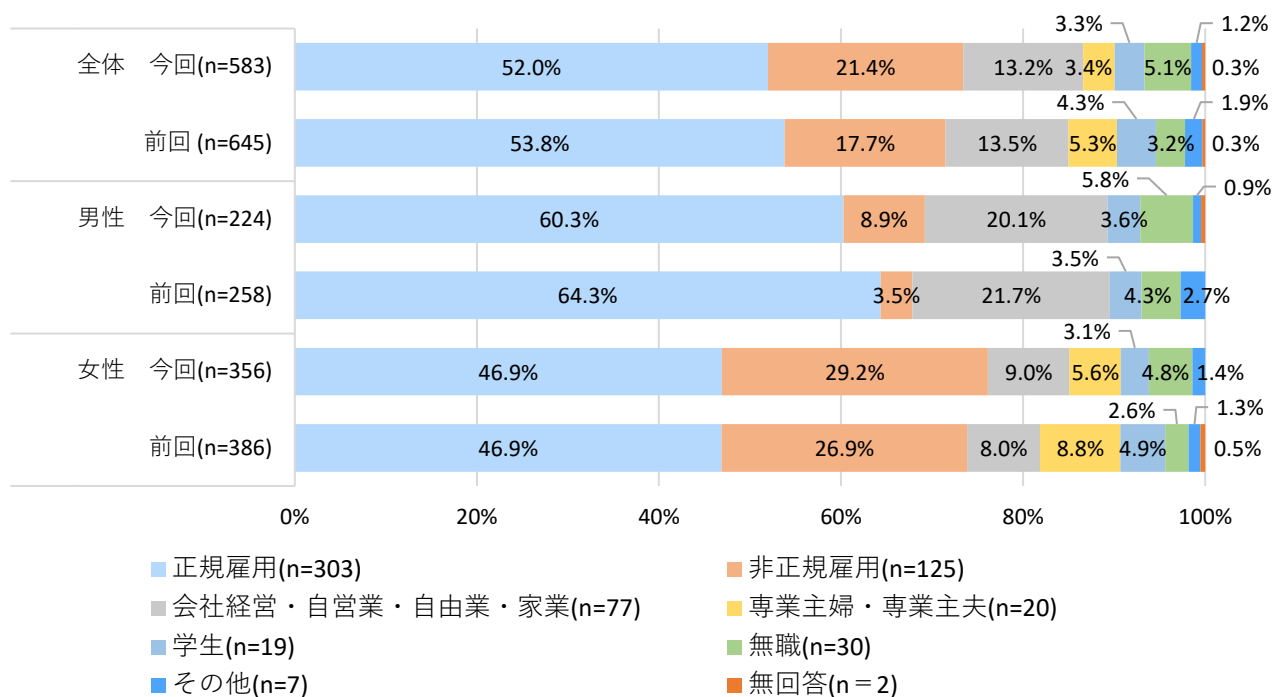


【年代】

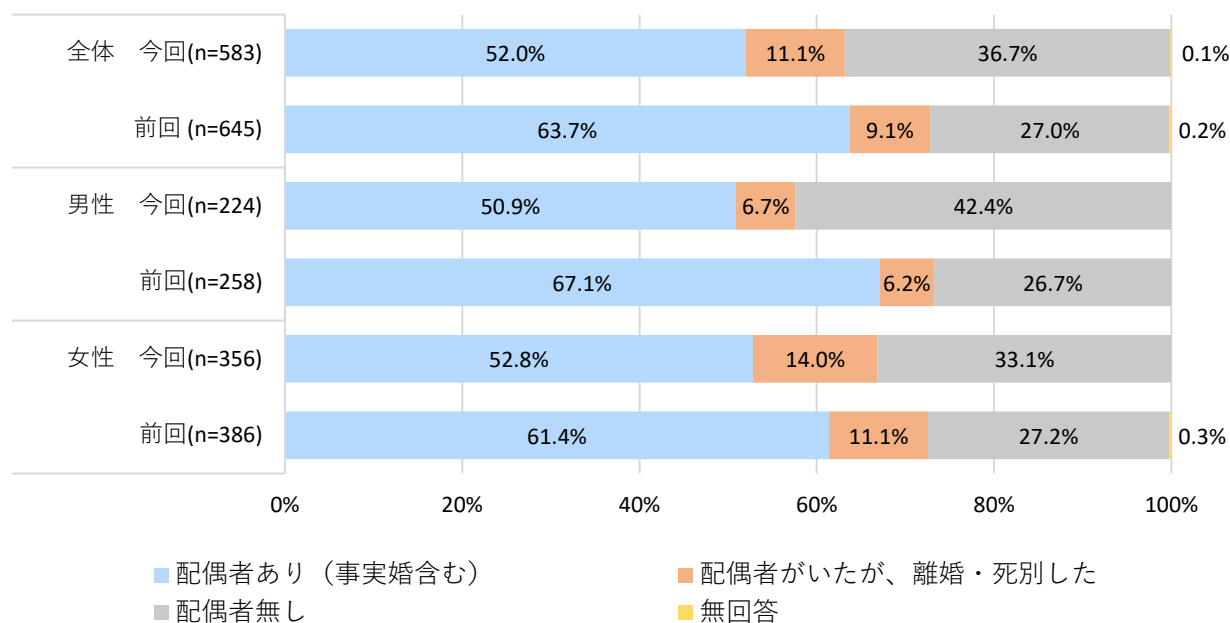


	回答	18歳～29歳		30歳代		40歳代		50歳代		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	今回	583	13.5	108	18.5	170	29.1	223	38.2	3	0.5
	前回	645	17.2	151	23.4	176	27.3	207	32.1	0	0.0
男性	今回	224	11.6	41	18.3	72	32.1	85	37.9	0	0.0
	前回	258	15.9	60	23.3	66	25.6	91	35.3	0	0.0
女性	今回	356	14.9	66	18.5	98	27.5	137	38.5	2	0.6
	前回	386	18.1	90	23.3	110	28.5	116	30.1	0	0.0
どちらでもない	今回	2	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0
	前回	1	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	今回	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
	前回	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

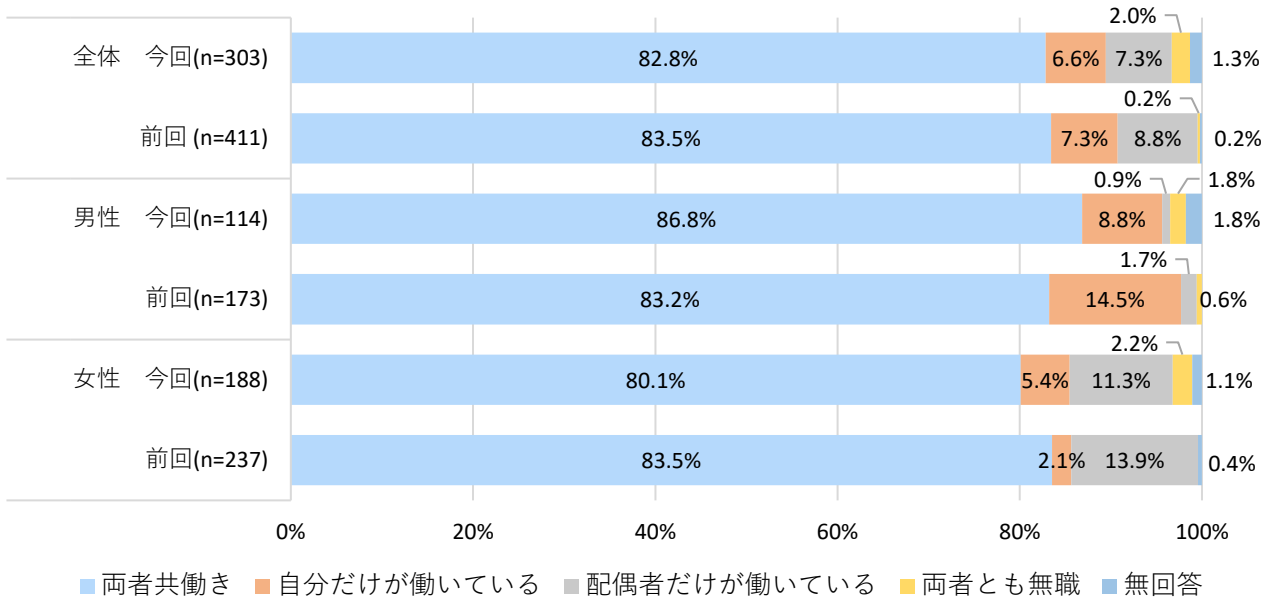
【職業】



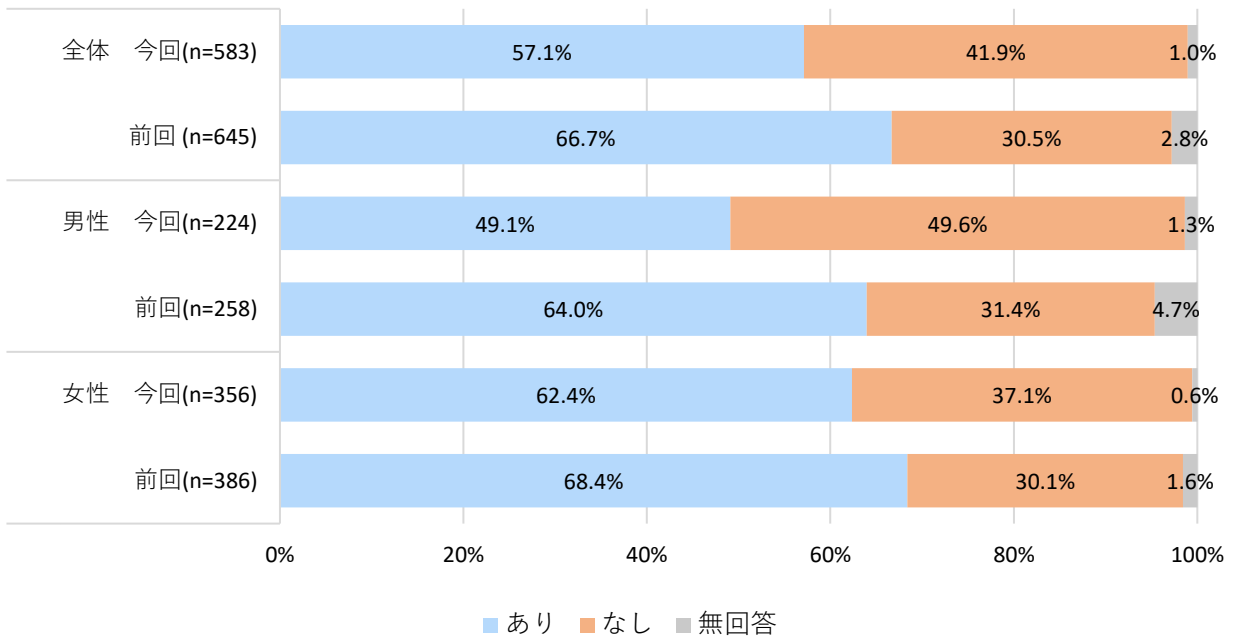
【配偶者の有無】



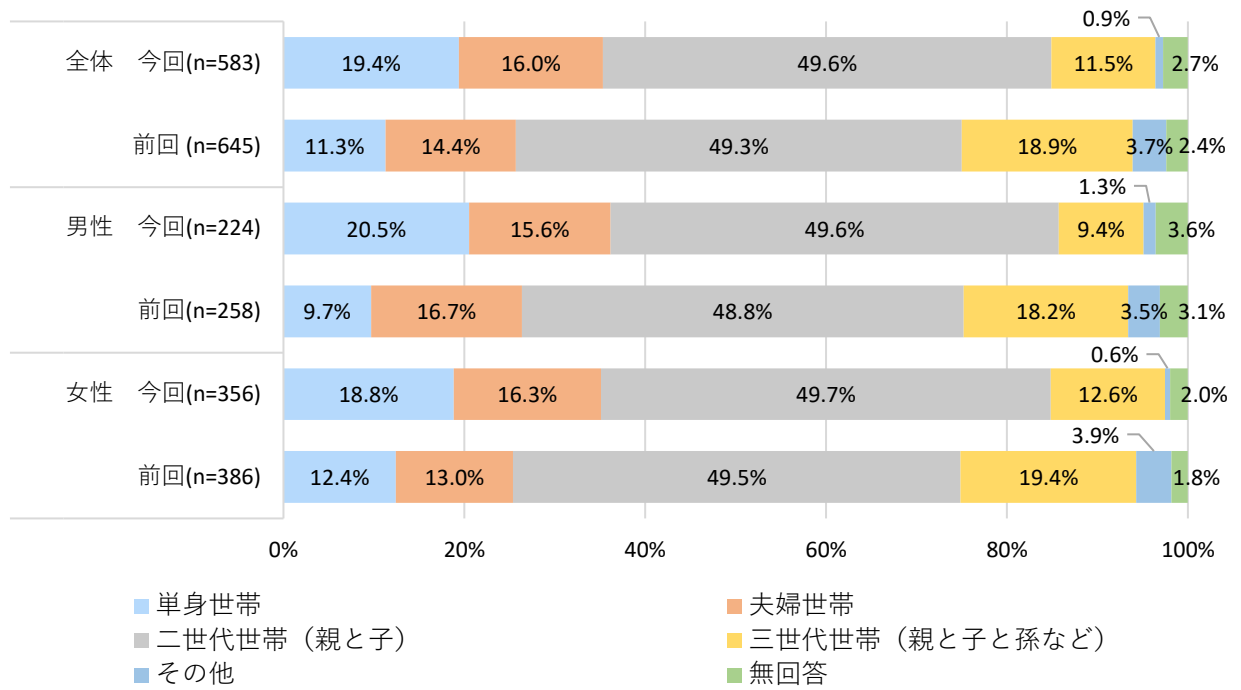
【夫婦の就業状況】



【子どもの有無】



【世帯の状況】



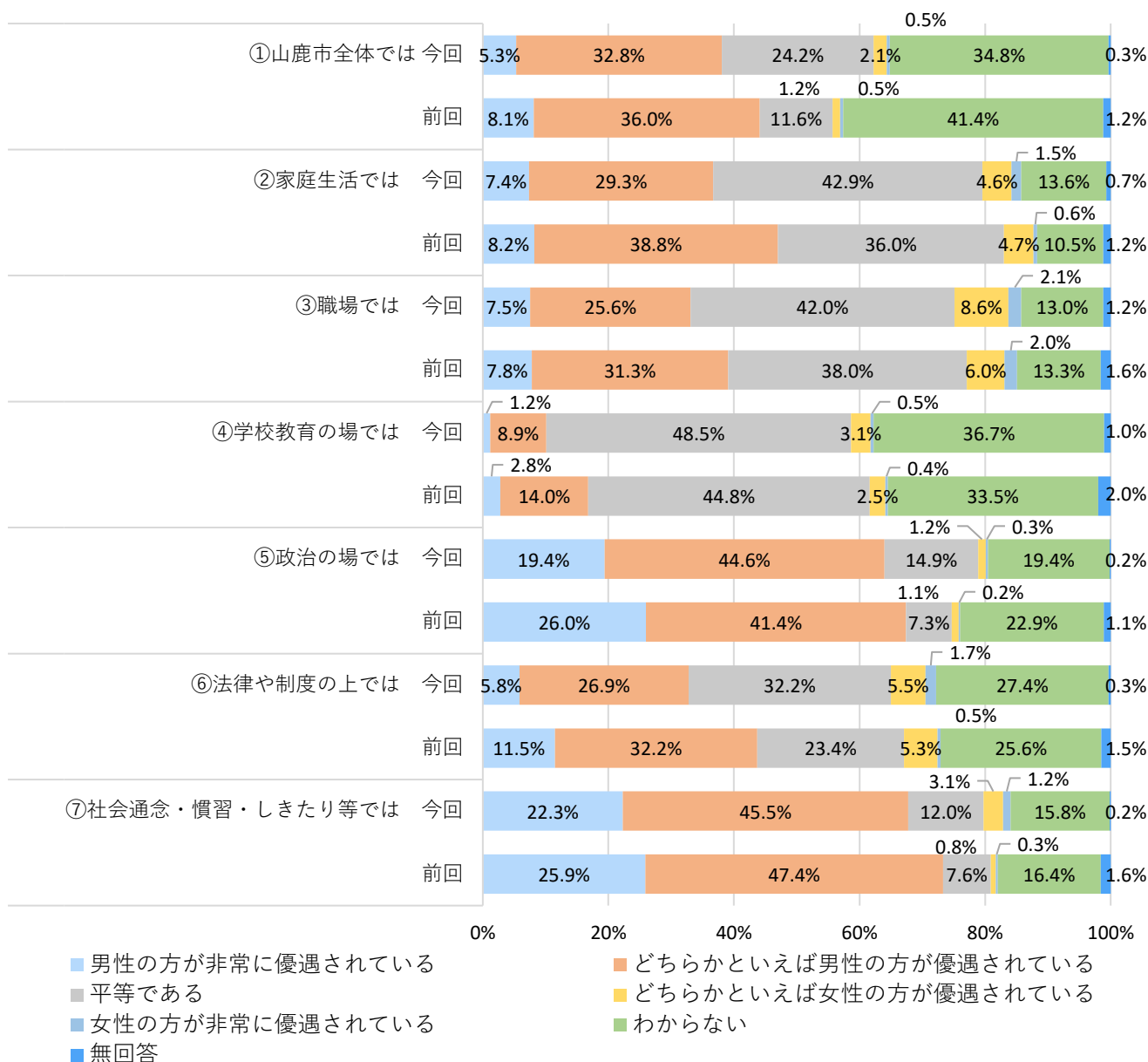
Ⅲ 調査結果

1. 男女共同参画の意識について

(1) 男女の地位の平等感

問8 あなたは、各項目について男女の地位は平等になっていると思いますか。
【それぞれ〇は1つ】

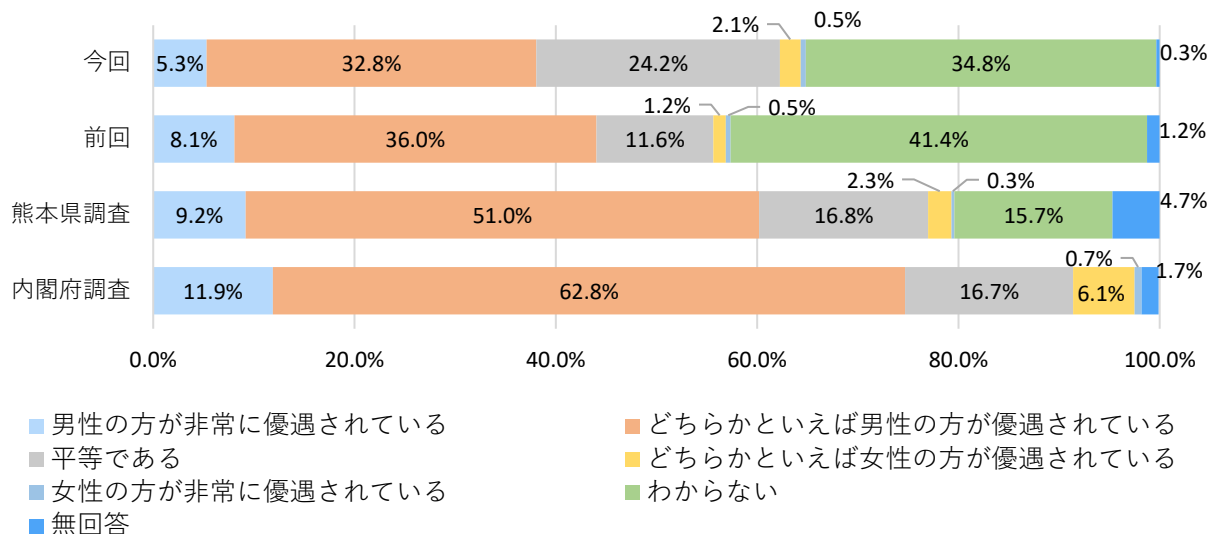
各項目における男女の平等感において、「平等である」との回答が最も多かったのは、「学校教育の場」(48.5%)、であった。一方で、「政治の場」(14.9%)や「社会通念、慣習、しきたり等」(12.0%)の割合は1割程度と低く、不平等感を感じている方が多い結果となっている。



【各項目別の状況及び比較】

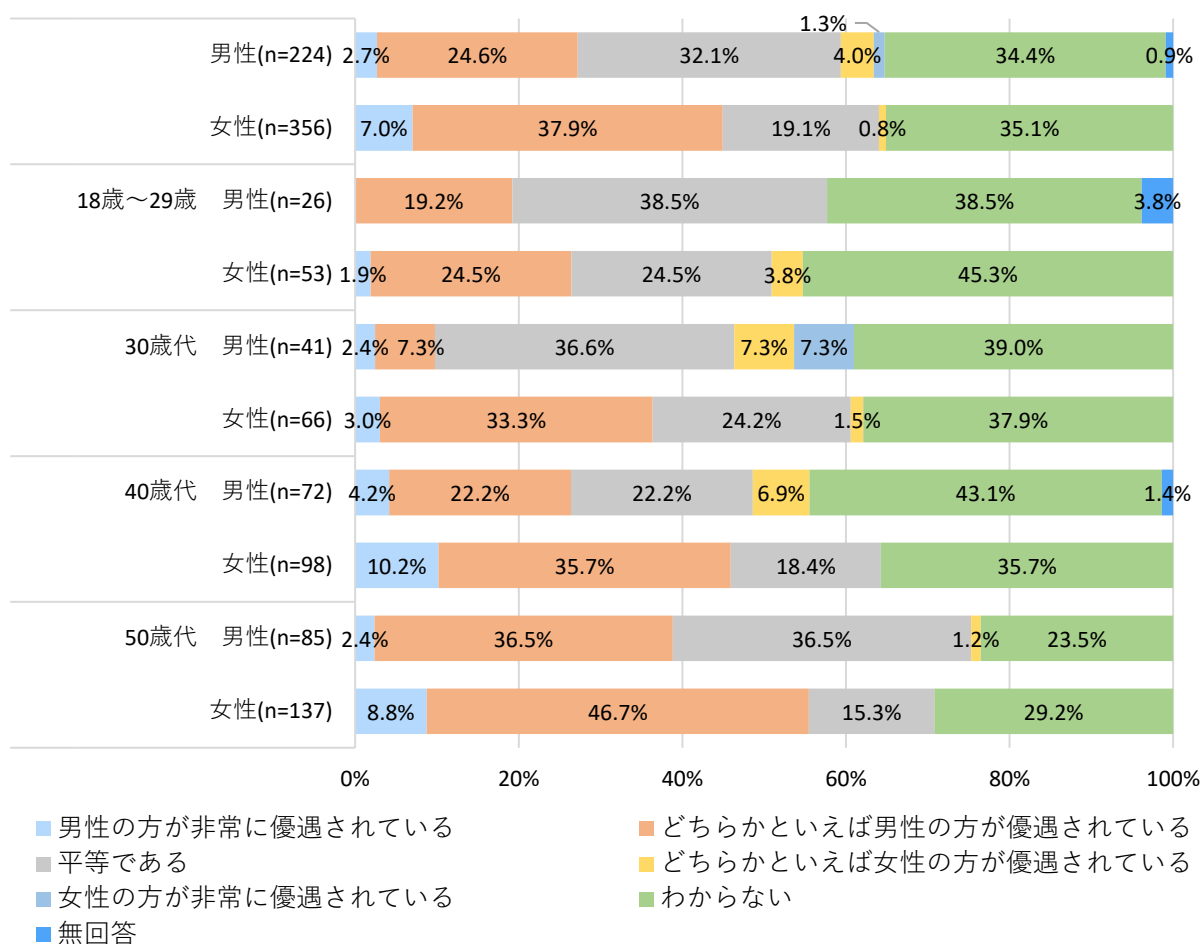
※内閣府の調査では、「わからない」の項目なし

① 山鹿市全体では（県＝熊本県全体、内閣府＝社会全体）

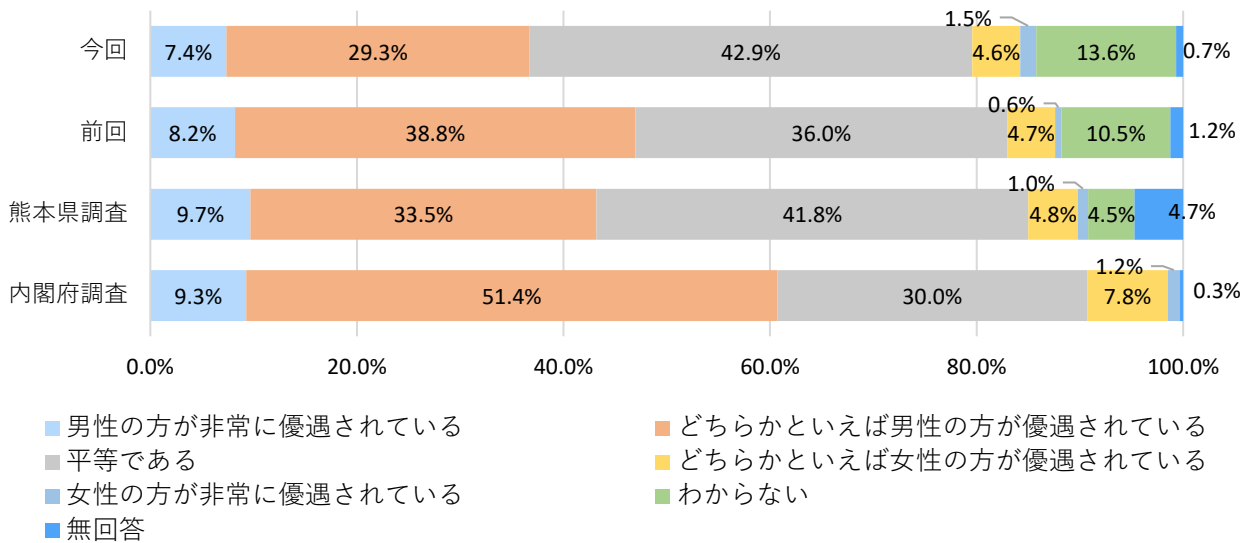


「平等である」と答えた方が前回調査と比べ 12.6 ポイント高くなっている。また、性別・年代別でみると、男性の方が「平等である」と答えている割合が多い。

※性別・年代別

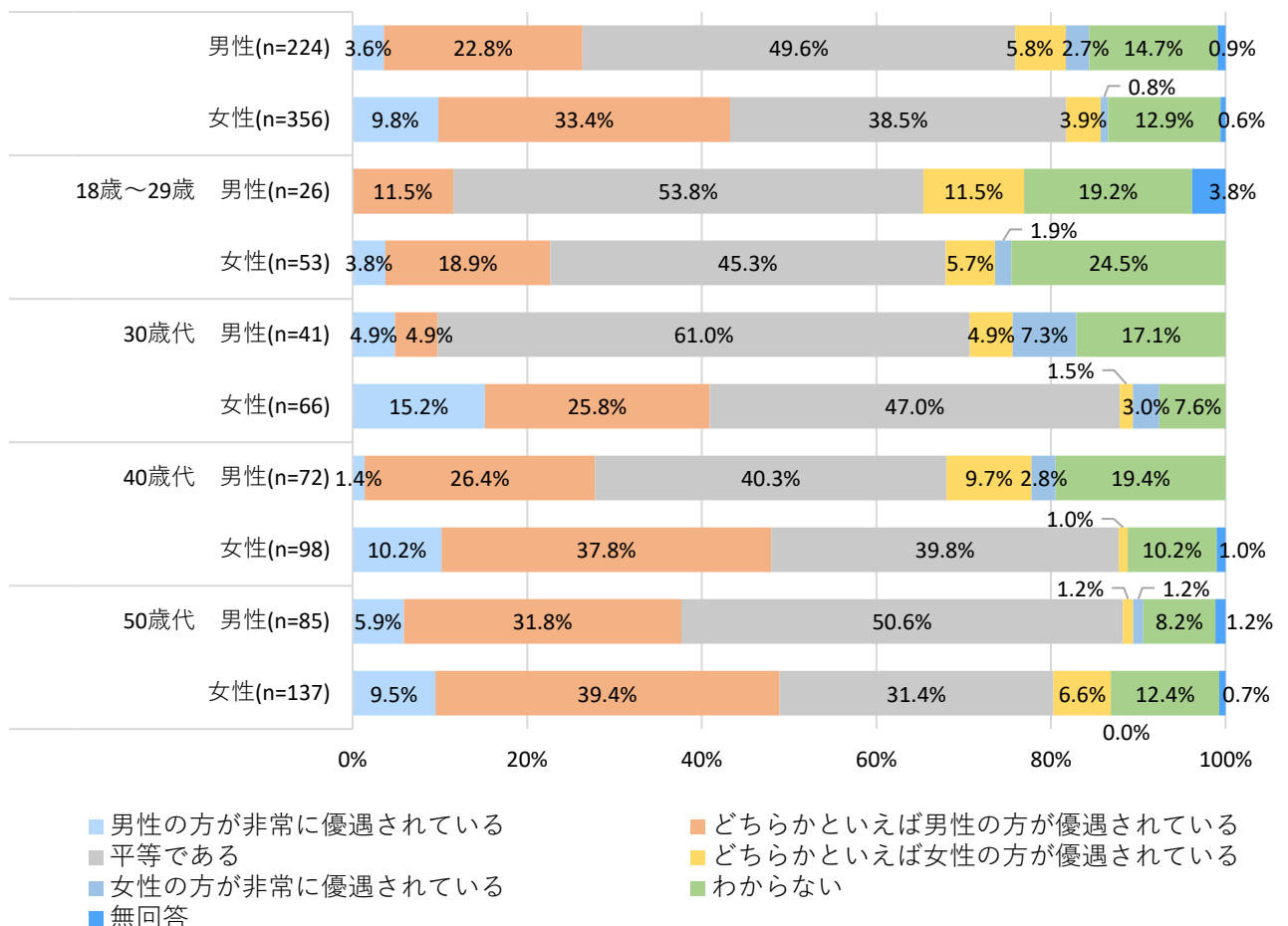


② 家庭生活では

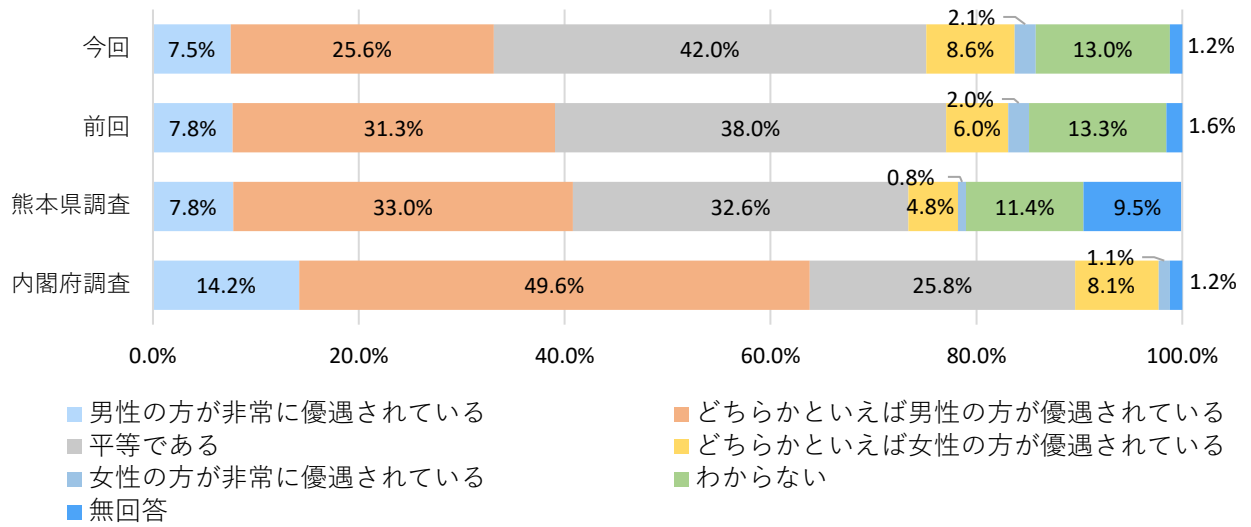


「男性優遇」（「男性の方が非常に優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」の割合の合計）と答えた割合が前回よりも減っているものの、性別や年代別で見ると、各年代において男性は約半数が「平等である」と答えているのに対し、30歳代から50歳代の女性では「男性優遇」と答えた方が5割弱となっており、男女の意識の差が表れている。

※性別・年代別

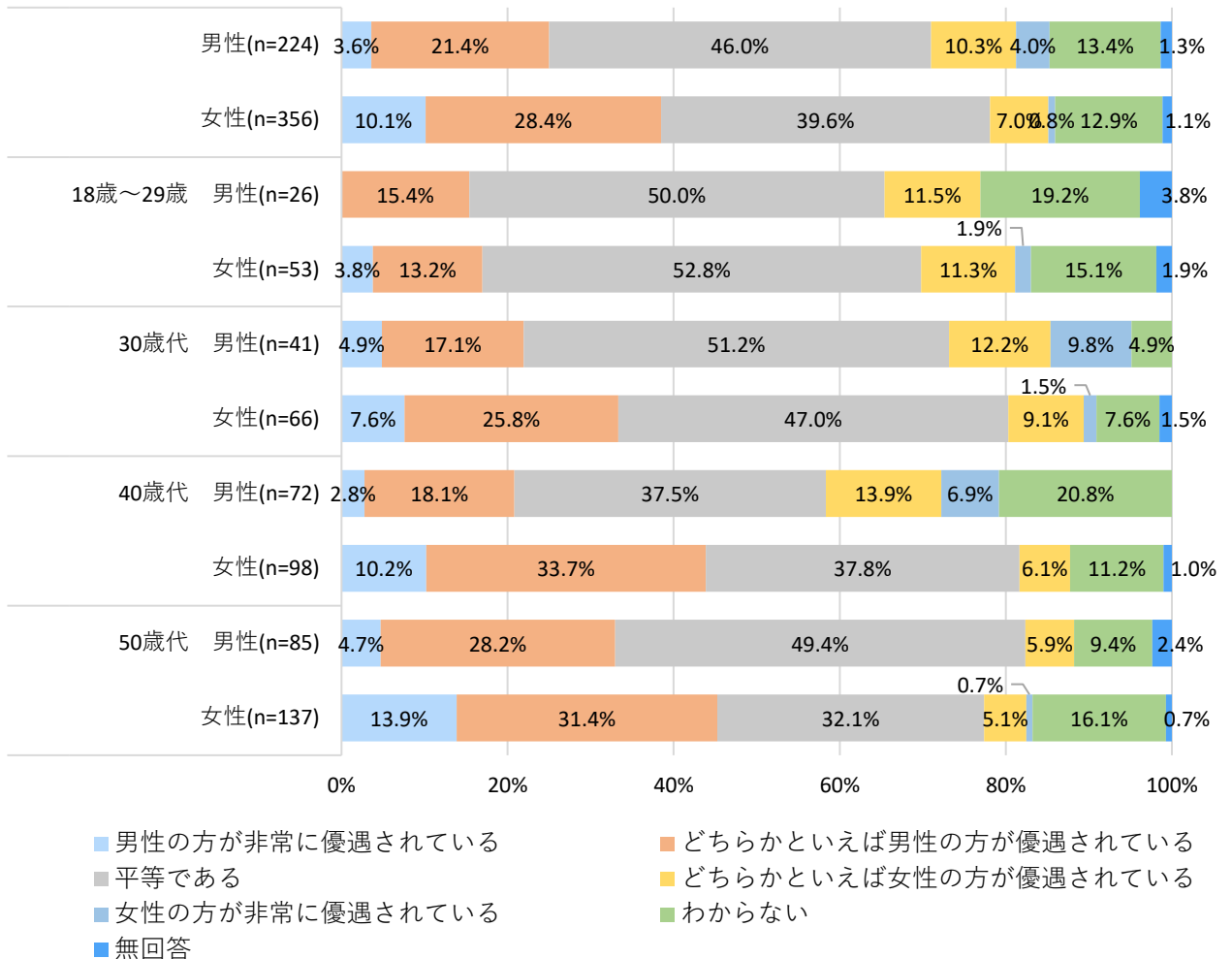


③ 職場では

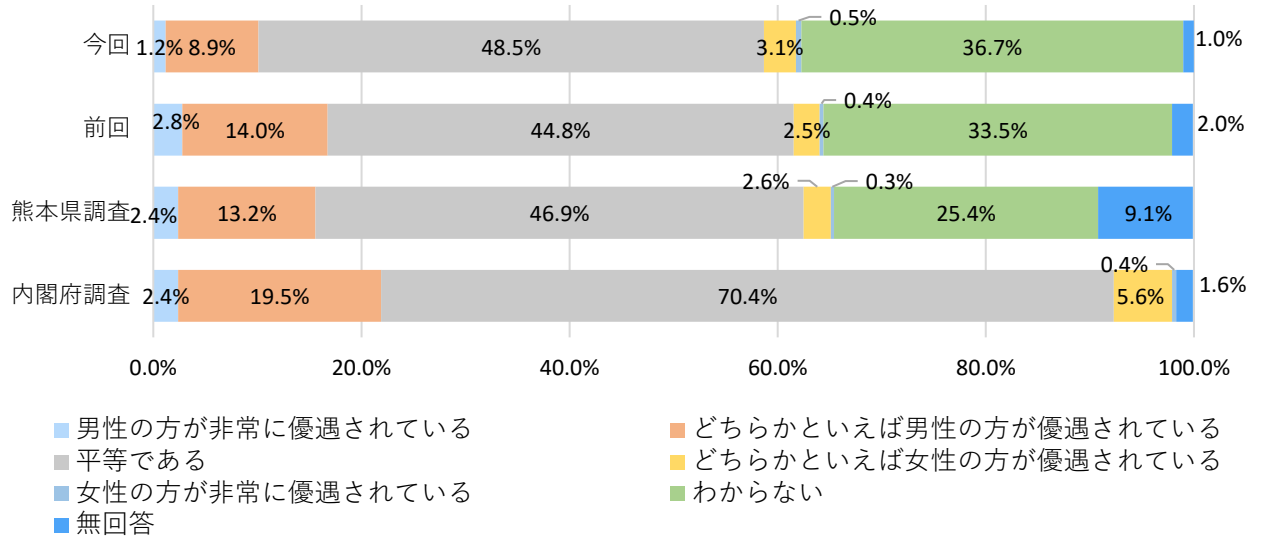


「平等である」と答えている方が多い一方で、女性では、年齢層が上がるほど「男性優遇」と感じている人の割合が高くなっている。

※性別・年代別



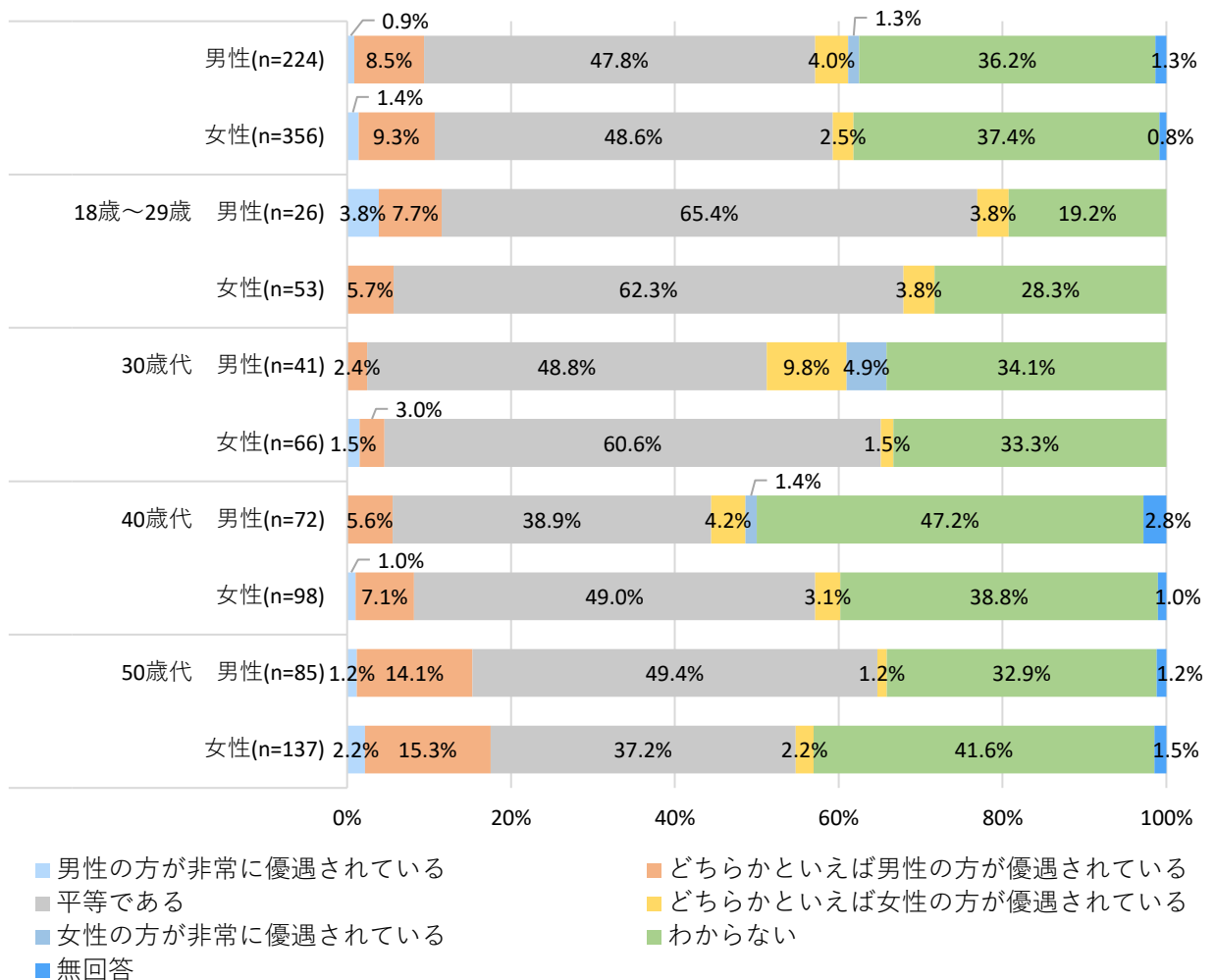
④ 学校教育の場では



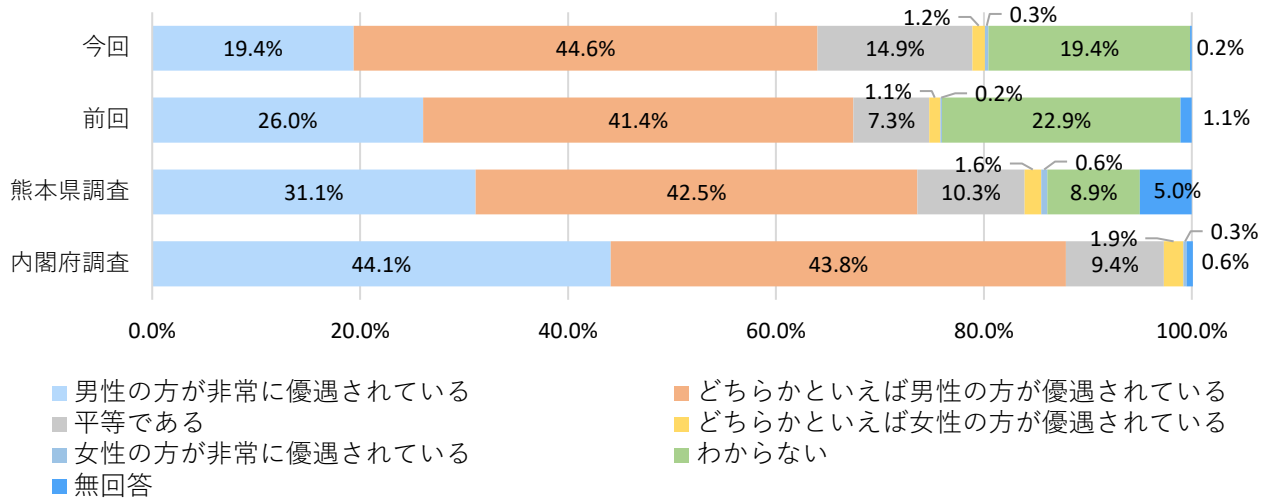
①から⑦の設問の中で「平等である」(48.5%)と答えた方の割合が最も高く、性別・年代別にみても5割前後の方が「平等である」と答えている。

50歳代においては、他の年代と比べ「男性優遇」と答えている方の割合が高い。

※性別・年代別

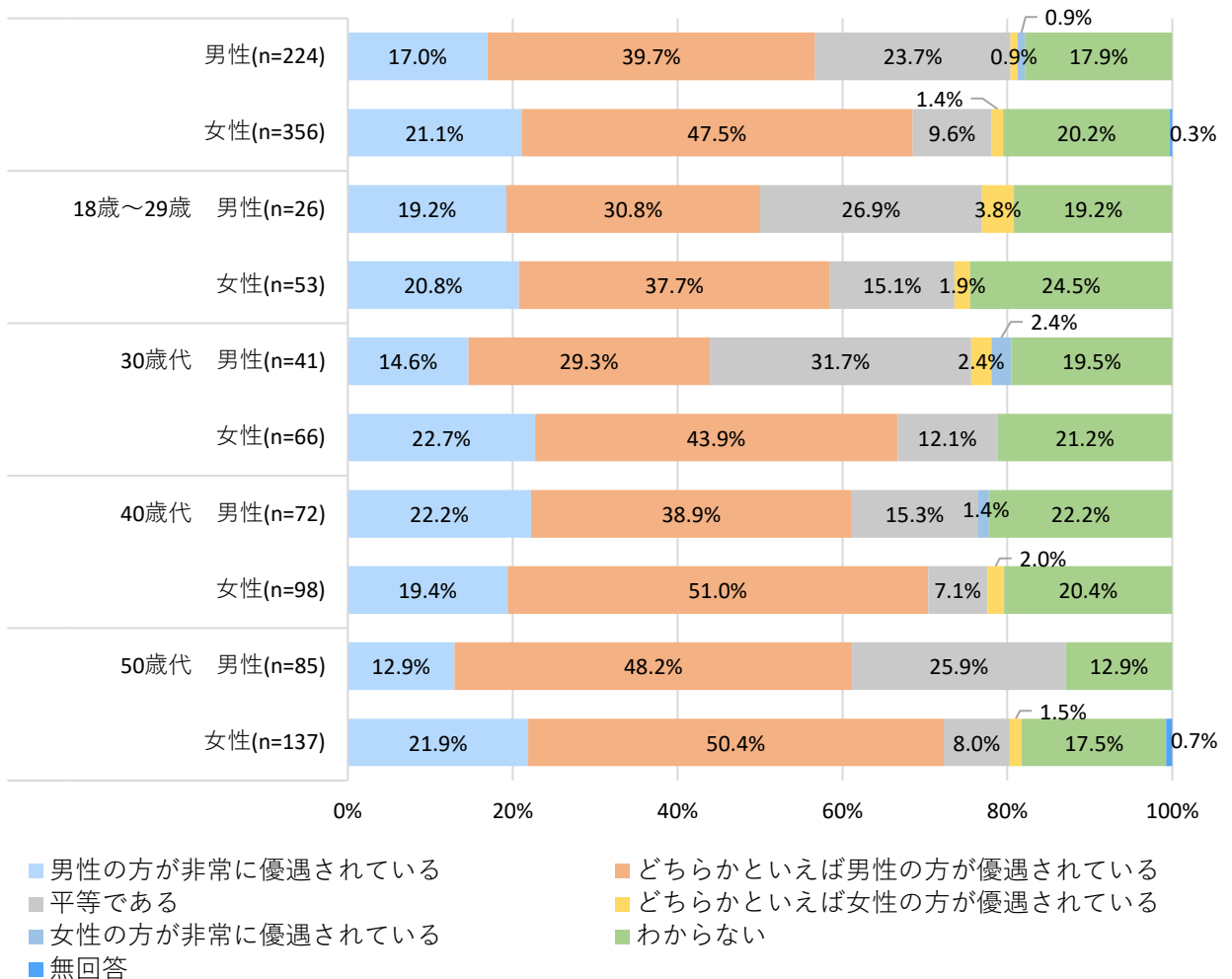


⑤ 政治の場では

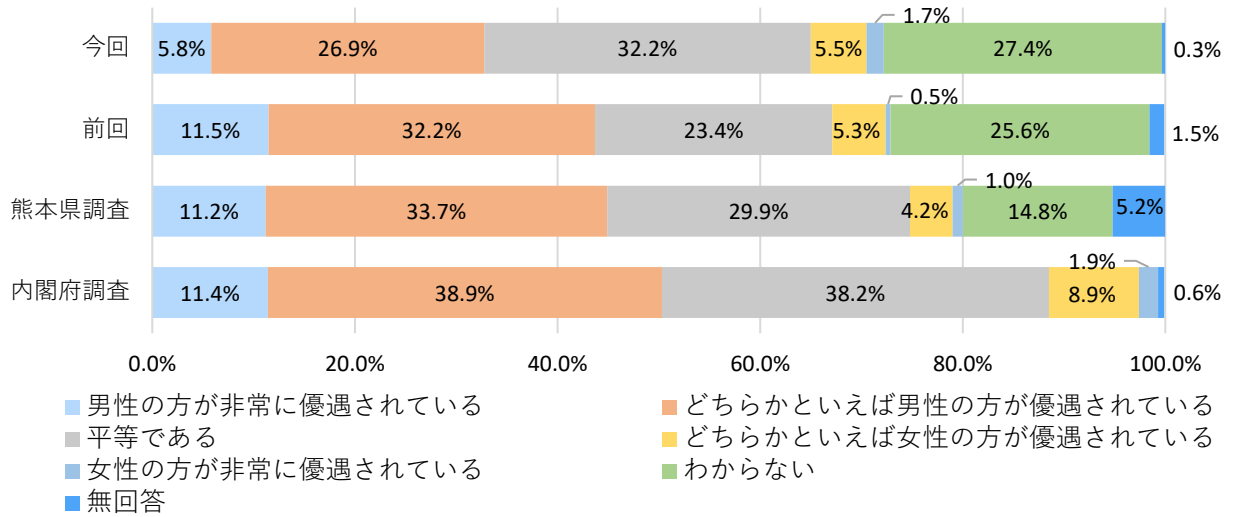


全体では「男性優遇」（合計 64.0%）と答えている方の割合が高く、前回よりもわずかに減少したものの6割を超えている。性別・年代別をみると、女性では7割近い方が「男性優遇」（合計 68.6%）と答えており、年齢層が上がるほど「男性優遇」を感じている方の割合が高くなっている。

※「政治の場」の詳細



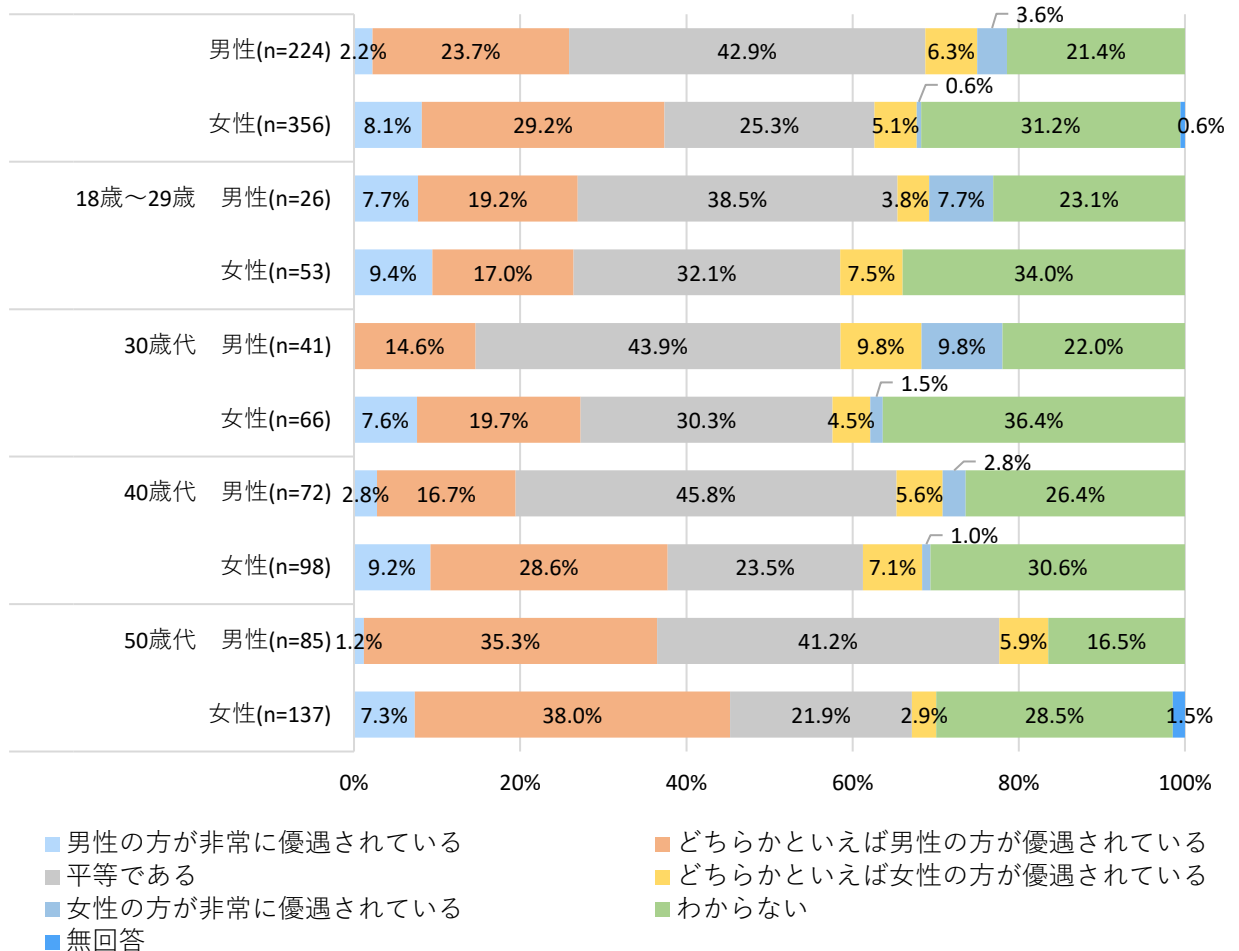
⑥ 法律や制度上では



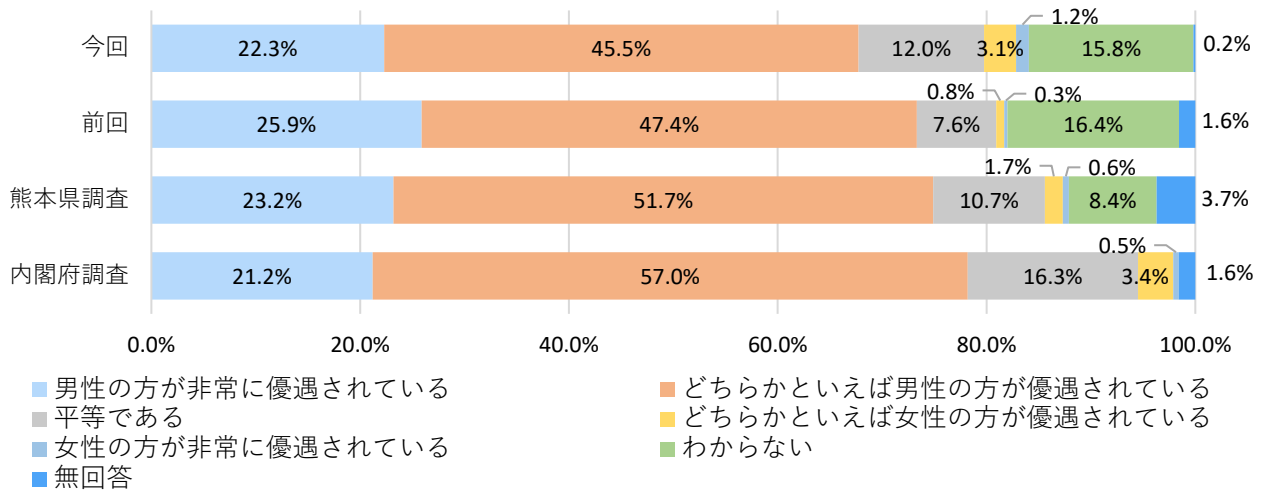
「平等である」(32.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「わからない」(27.4%)と答えた方の割合が高くなっている。熊本県調査と比較すると、「男性優遇」(合計32.7%)と答えた方の割合が12.2ポイント低くなっている。

性別・年代別にみると、男性よりも女性で平等感を感じる割合が低く、平等感の差は、年齢層が上がるにつれて男女間で広がっている。

※性別・年代別



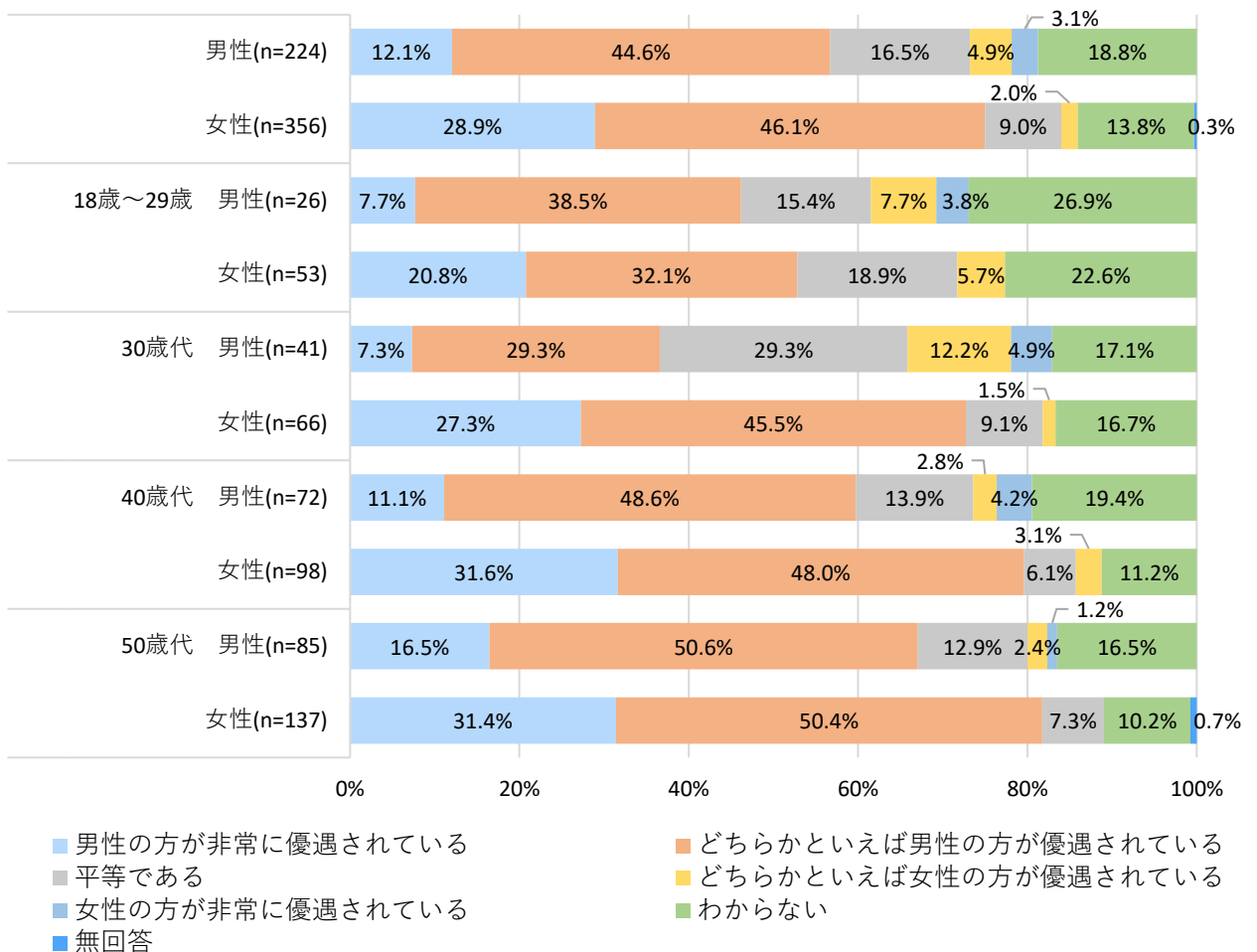
⑦社会通念・慣習・しきたり等では



「男性優遇」（合計 67.8%）と答えた方の割合が高く、①から⑦の設問の中で最も高い割合である。

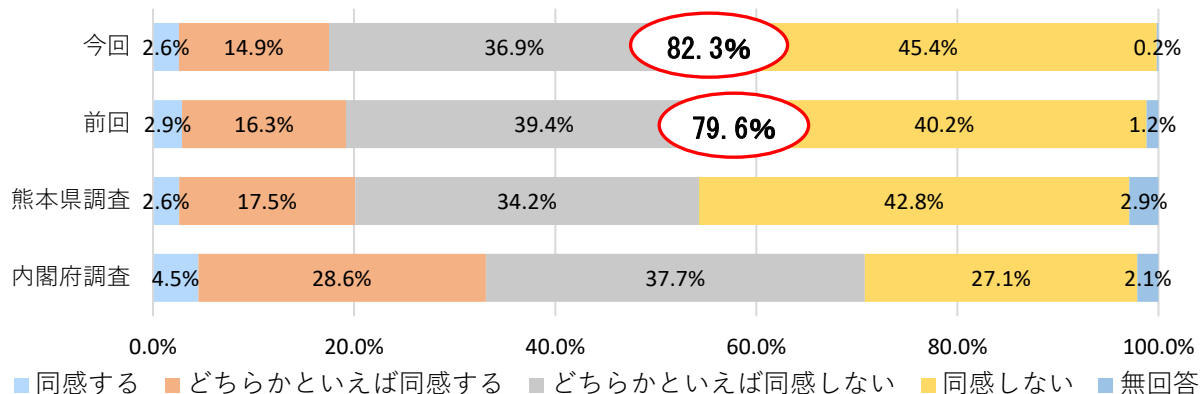
性別・年代別にみると、男性より女性の方が 18.3 ポイント高く「男性優遇」を感じている一方で、「女性優遇」（「女性が非常に優遇」と「どちらかといえば女性が優遇」の割合の合計）と答えた男性は、女性より 6.0 ポイント高く、特に 30 歳代の男性でその割合が高くなっている。

※性別・年代別



(2) 固定的性別役割分担意識

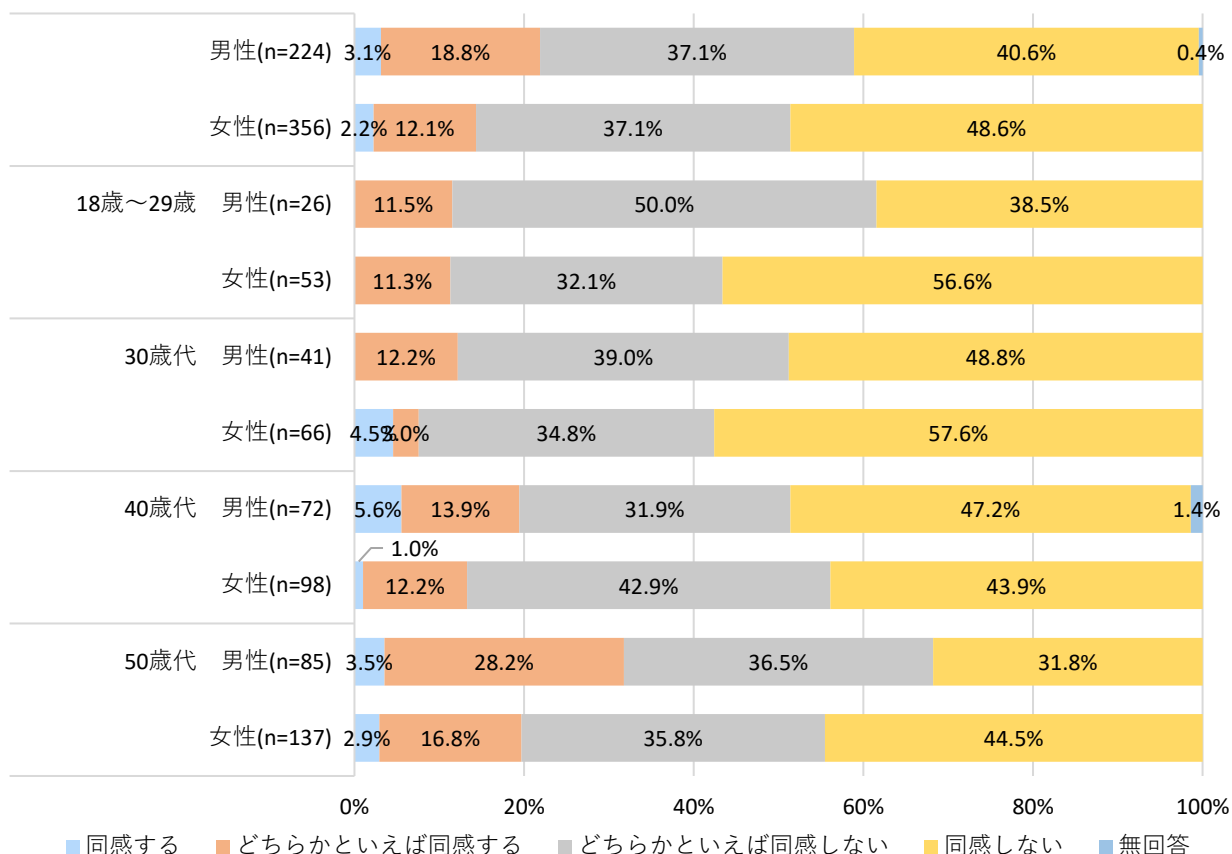
問9 あなたは、『「男性は主要な業務、女性は補助的業務」などと性別によって役割を固定する考え方』について、どう思いますか。【○は1つ】



性別によって役割と固定する考え方に「同意しない」（「どちらかといえば同意しない」と「同意しない」の割合の合計）割合は82.3%であり、前回よりも2.7ポイント高くなっている。

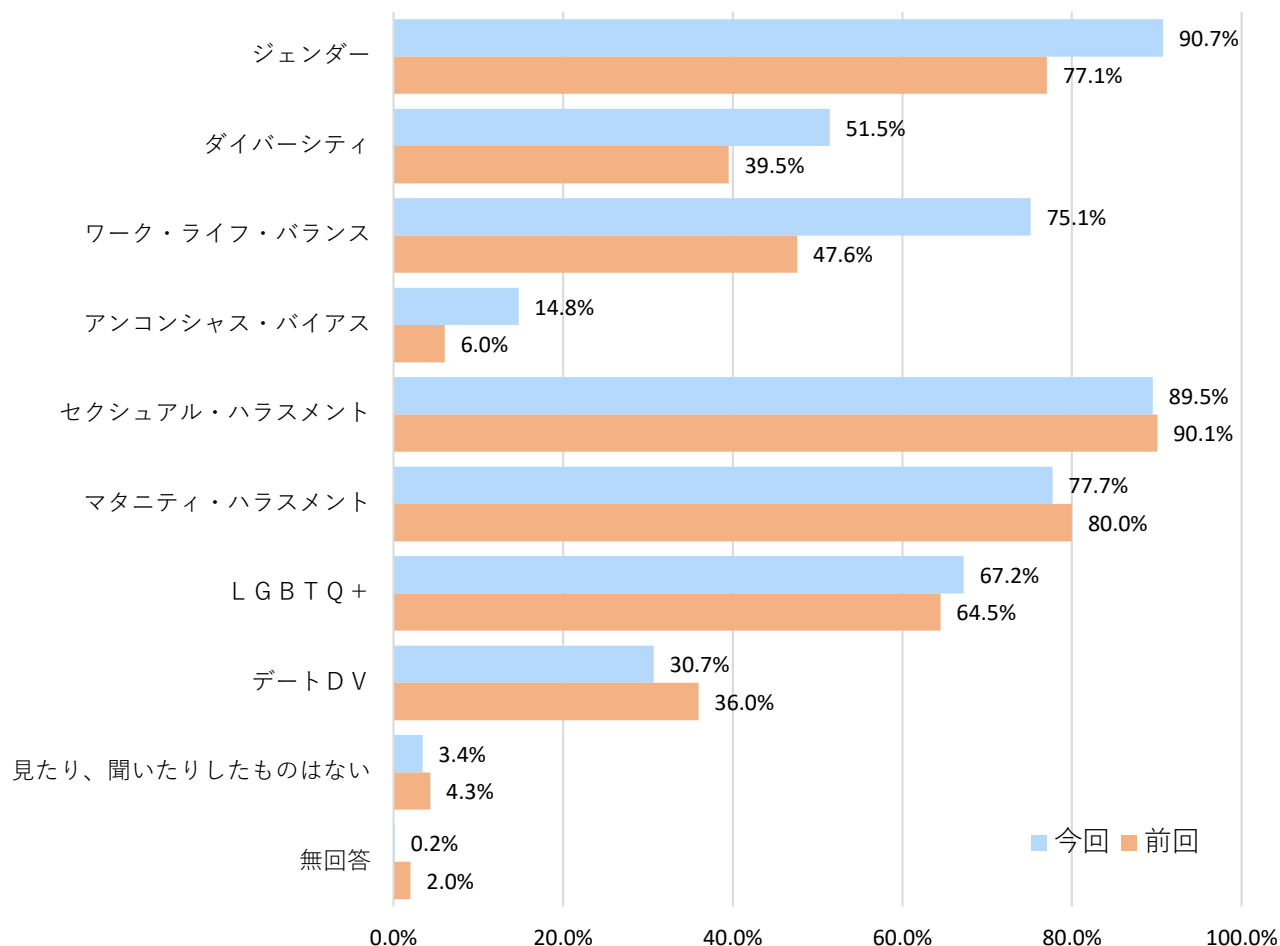
性別・年代別にみると、「同意しない」割合はどの年代も高いが、50歳代の男性では「同意する」（「同意する」と「どちらかといえば同意する」の割合の合計）と答えた割合が、他の年代と比較し高くなっている。

※性別・年代別



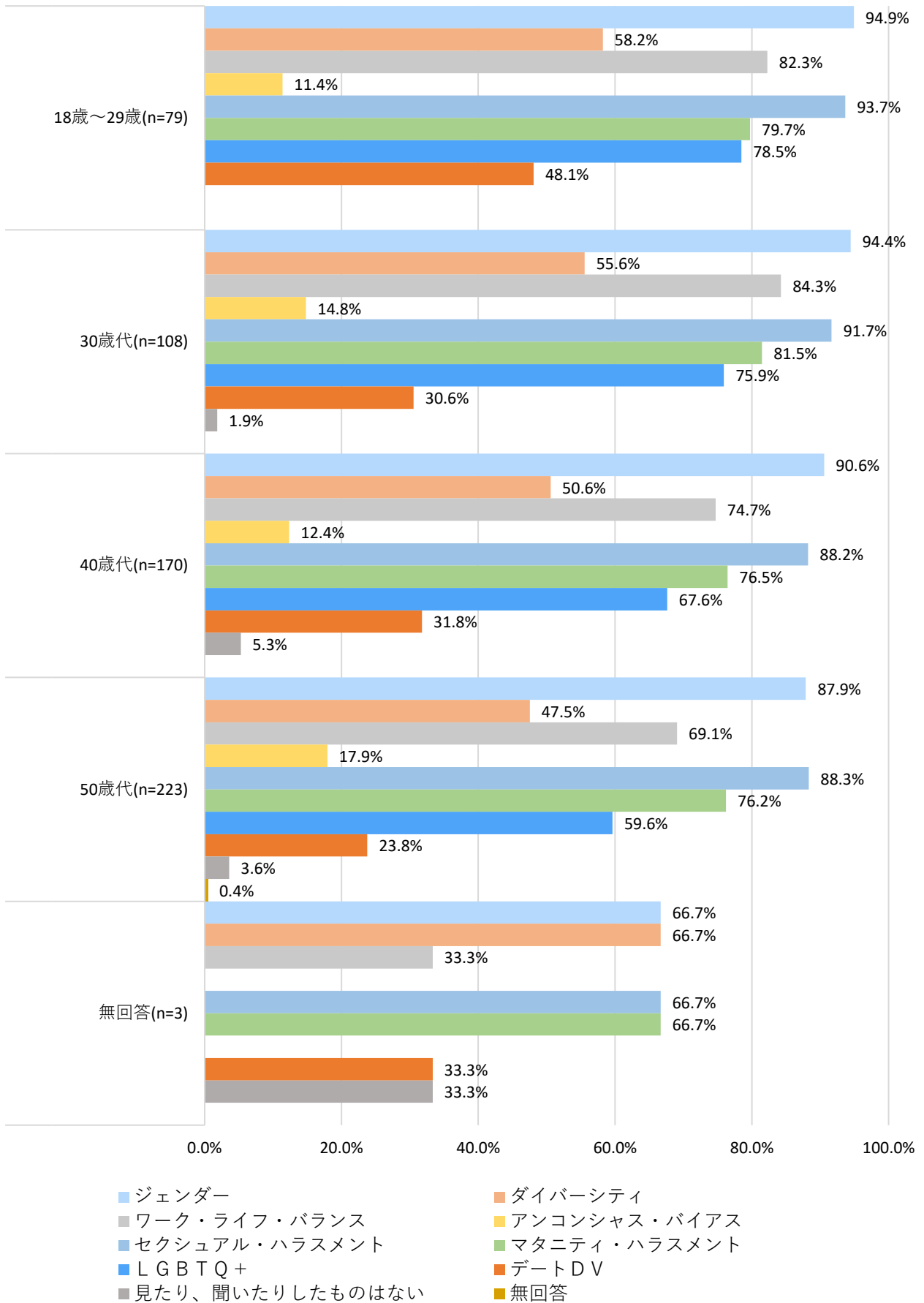
(3) 男女共同参画に関する用語の周知度

問 10 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。【当てはまるもの全てに○】



周知度が最も伸びたものは「ワーク・ライフ・バランス」(75.1%)であり、前回調査と比較すると27.5ポイント高くなっている。また、「ジェンダー」(90.7%)や「ダイバーシティ」(51.5%)も前回を上回っている。「アンコンシャス・バイアス」(14.8%)は、前回調査より上回ったものの、周知度は低い結果となった。

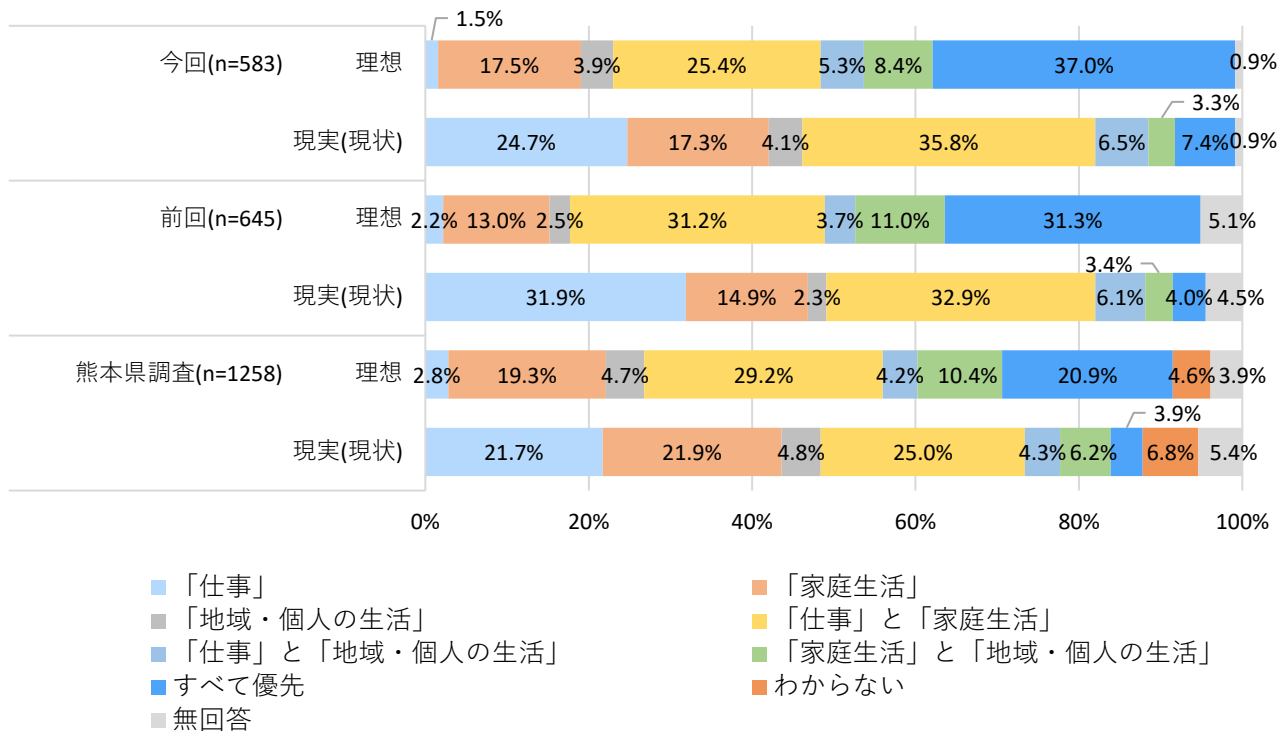
※年代別



2. 仕事・家庭生活・地域生活の両立について

(1) 生活における優先度の「理想」と「現実（現状）」

問 11-① あなたの生活の中での優先度について、理想に最も近いもの及び現実に最も近いものを選んでください。【それぞれ〇は1つ】

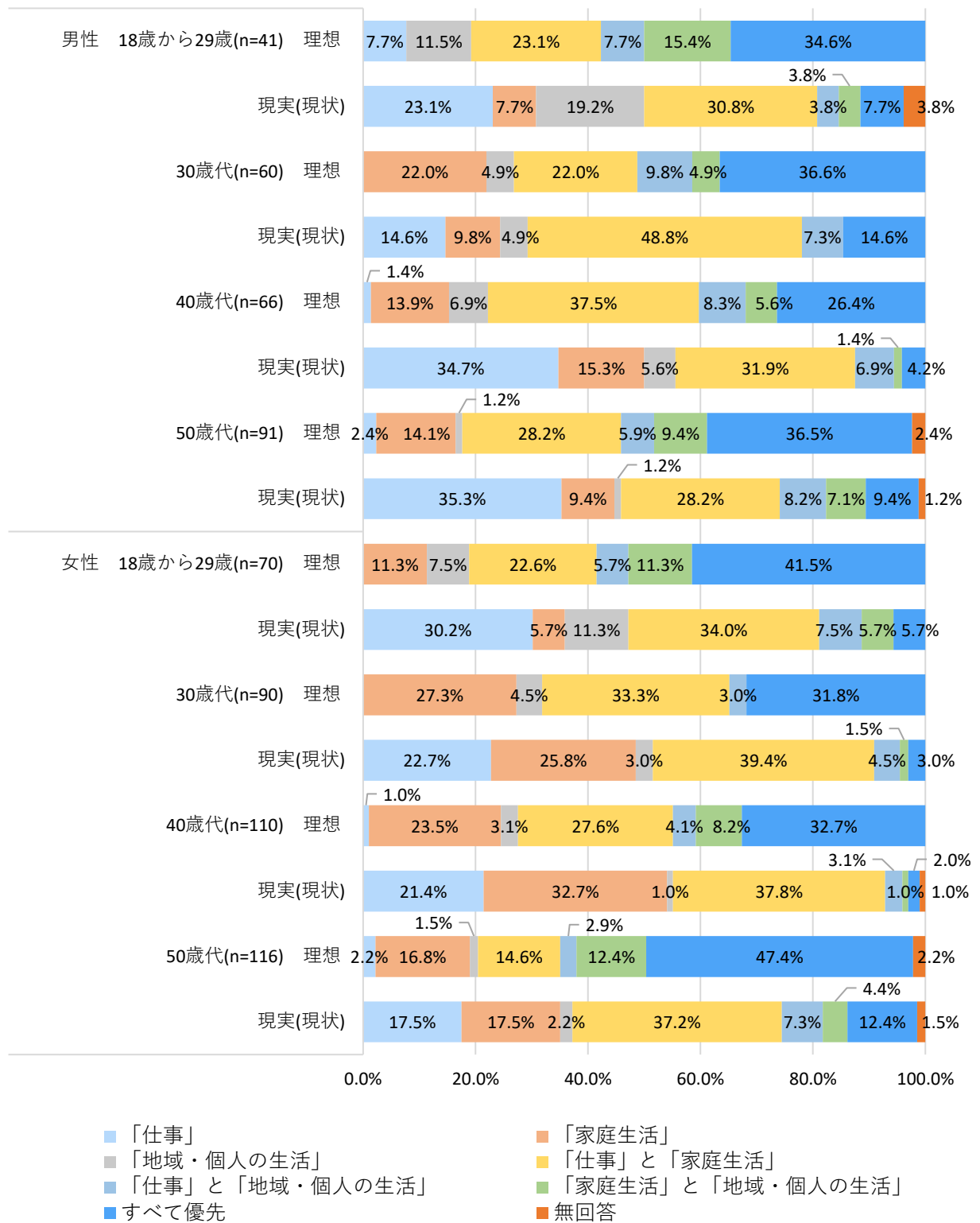


「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度において、理想と現実（現状）のギャップが最も大きいのは「すべて優先」であり、29.6ポイントの差がある。次いで「仕事」で23.2ポイントの差である。また、「仕事と家庭生活」の優先度は、現実（現状）の割合が理想より10.4ポイント高くなっている。

性別・年代別をみると、男女とも「仕事」の優先度において理想と現実（現状）のギャップは大きく、特に40歳代の男性と18歳から29歳、30歳代の女性で顕著に表れている。

全ての年代の女性において、理想では「すべて優先」の割合が最も高いが、現実では「仕事と家庭生活」の優先度が高く、「地域・個人の生活」（ボランティアや地域活動、趣味・娯楽など）の優先度を制限して生活していることが推察できる。

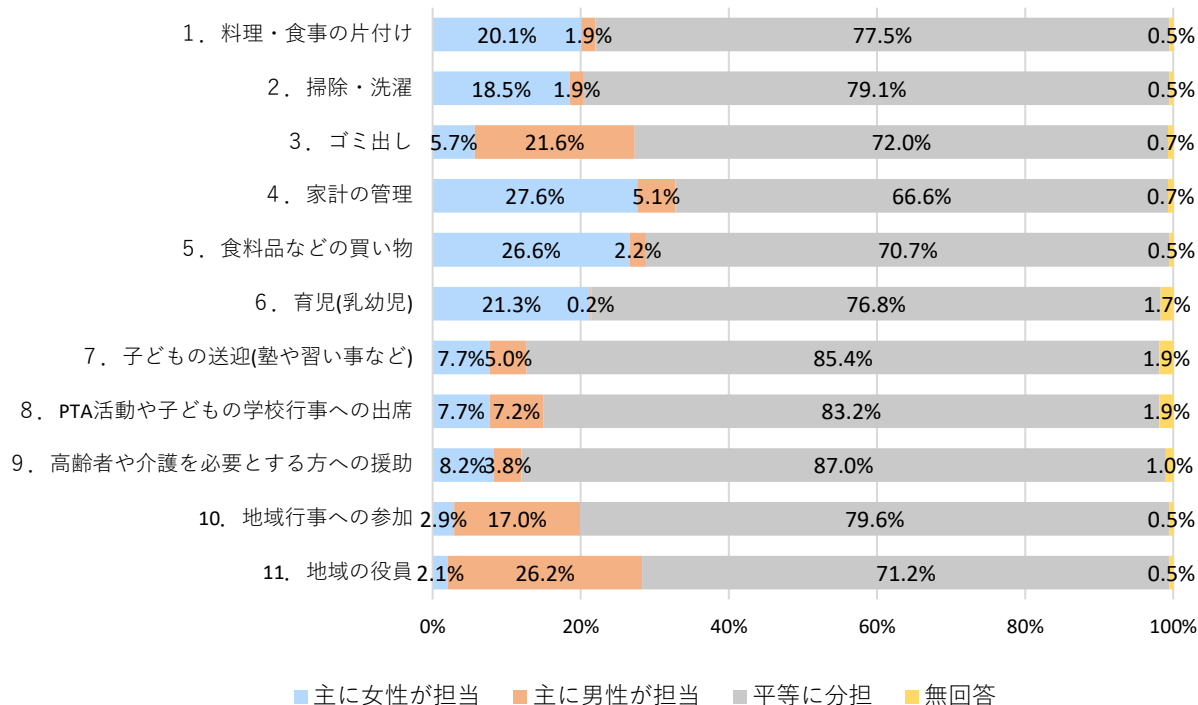
※性別・年代別



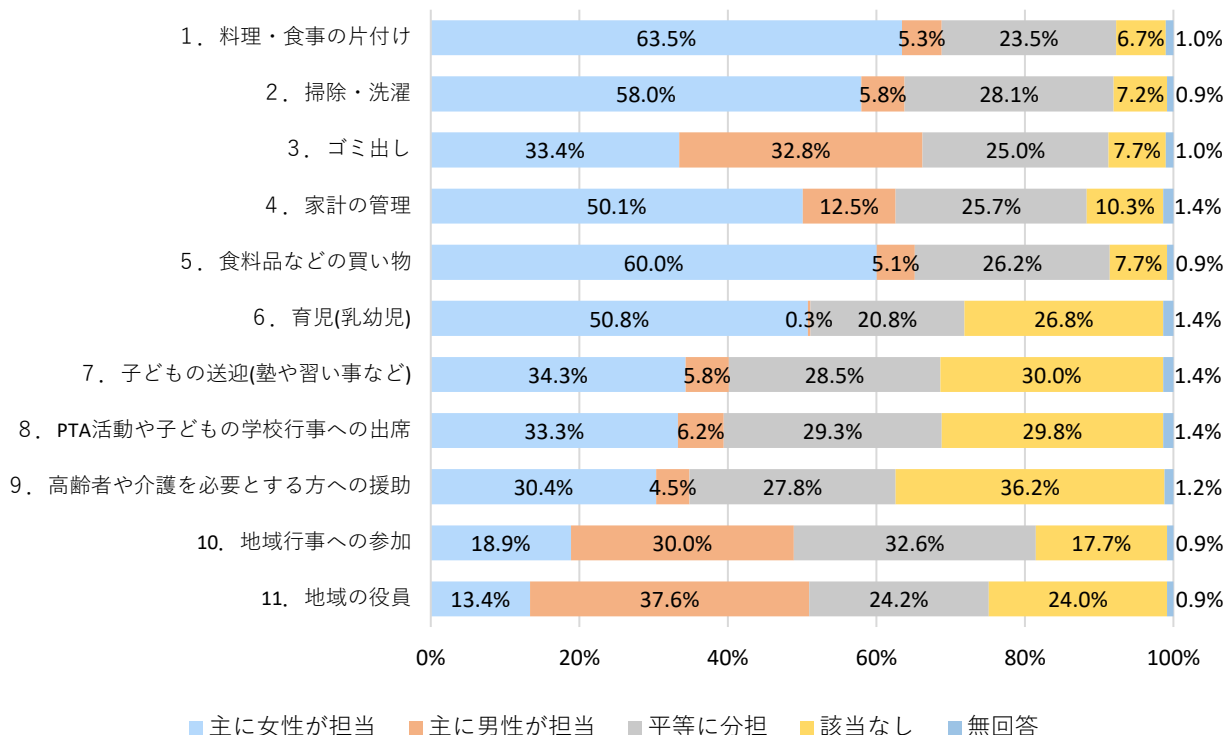
(2) 家庭生活における「理想」と「現実（実際）」

問 11-② 家庭生活についてあなたの理想と現実（実際）をお聞かせください。
【それぞれ〇は1つ】

【理想：全体】



【現実(実際)：全体】

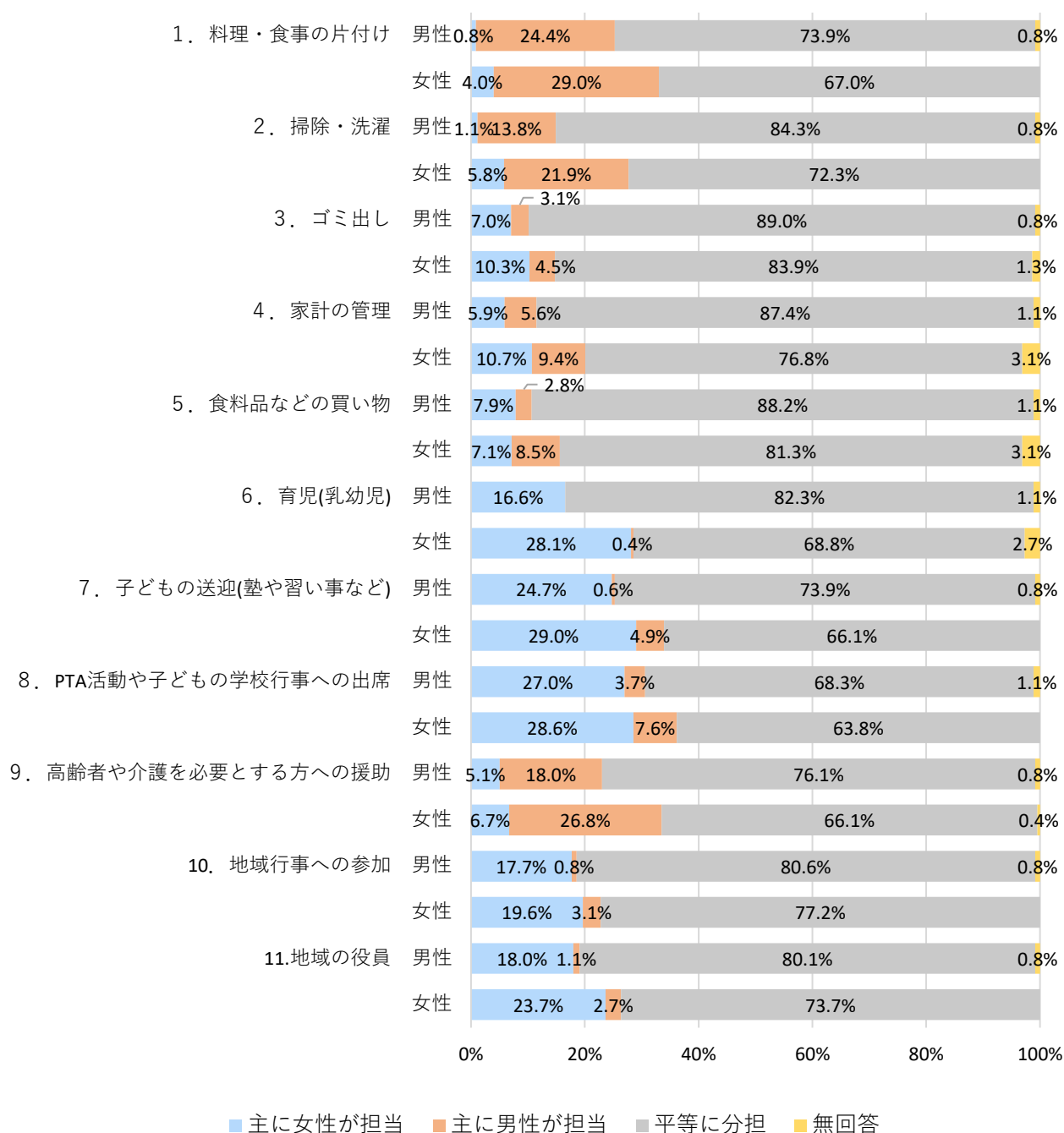


家庭生活における理想と現実（実際）において、理想では、「平等に分担」は全ての項目で割合が最も高く、「主に女性が担当」では「家計の管理」、「主に男性が担当」では「地域の役員」の割合が高くなっている。

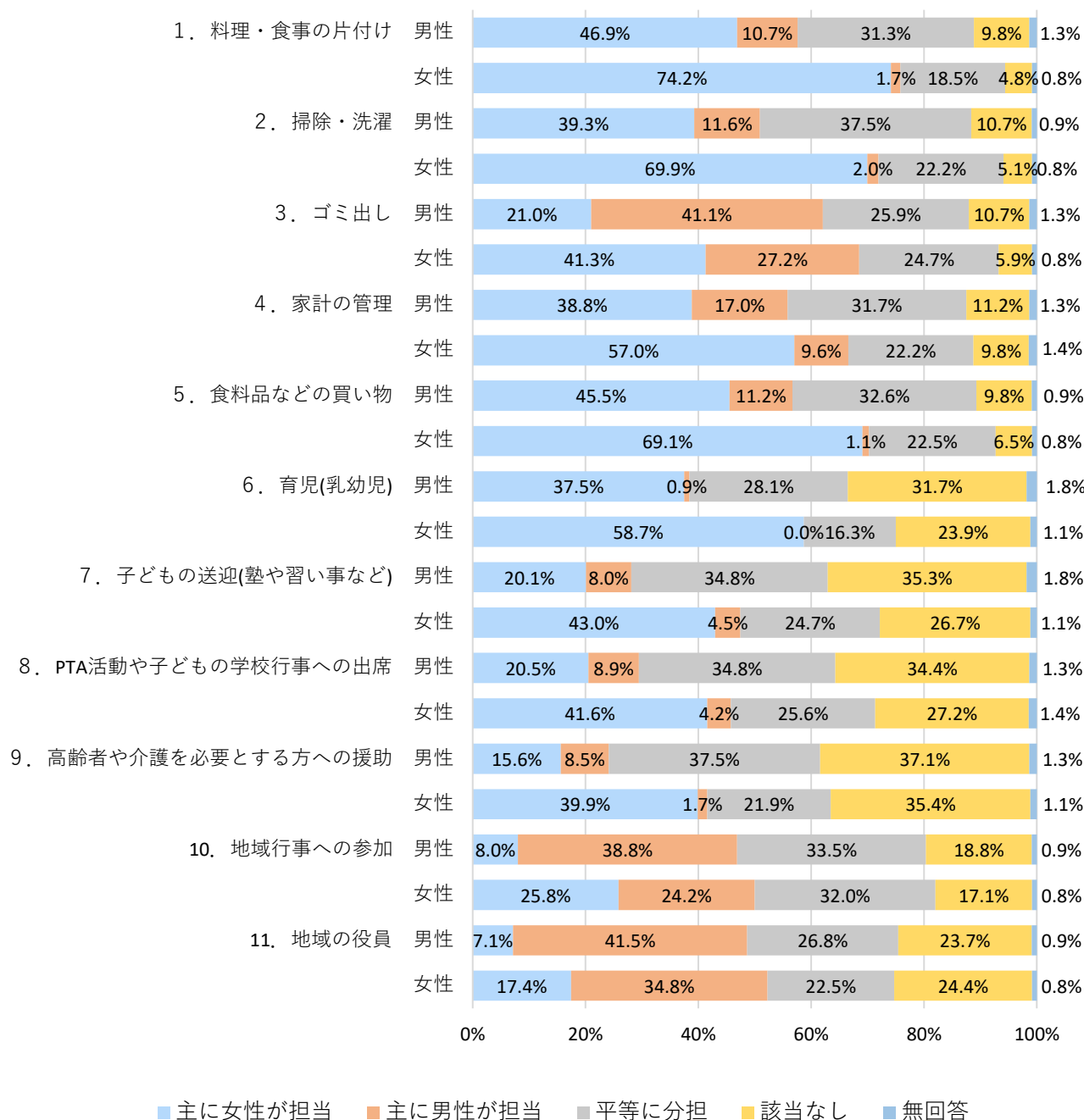
現実では、「主に女性が担当」は1～9の設問で高い割合を示しており、最も高いものは「1. 料理・食事の片付け」であった。反対に、「主に男性が担当」では「3. ゴミ出し」、「10. 地域行事への参加」、「11. 地域の役員」が高い割合となっている。

各設問において、理想は男女平等だが、現実には女性の負担が大きくなっている現状が見受けられる。

【理想：性別】 ※性別は「どちらでもない・無回答」を除く



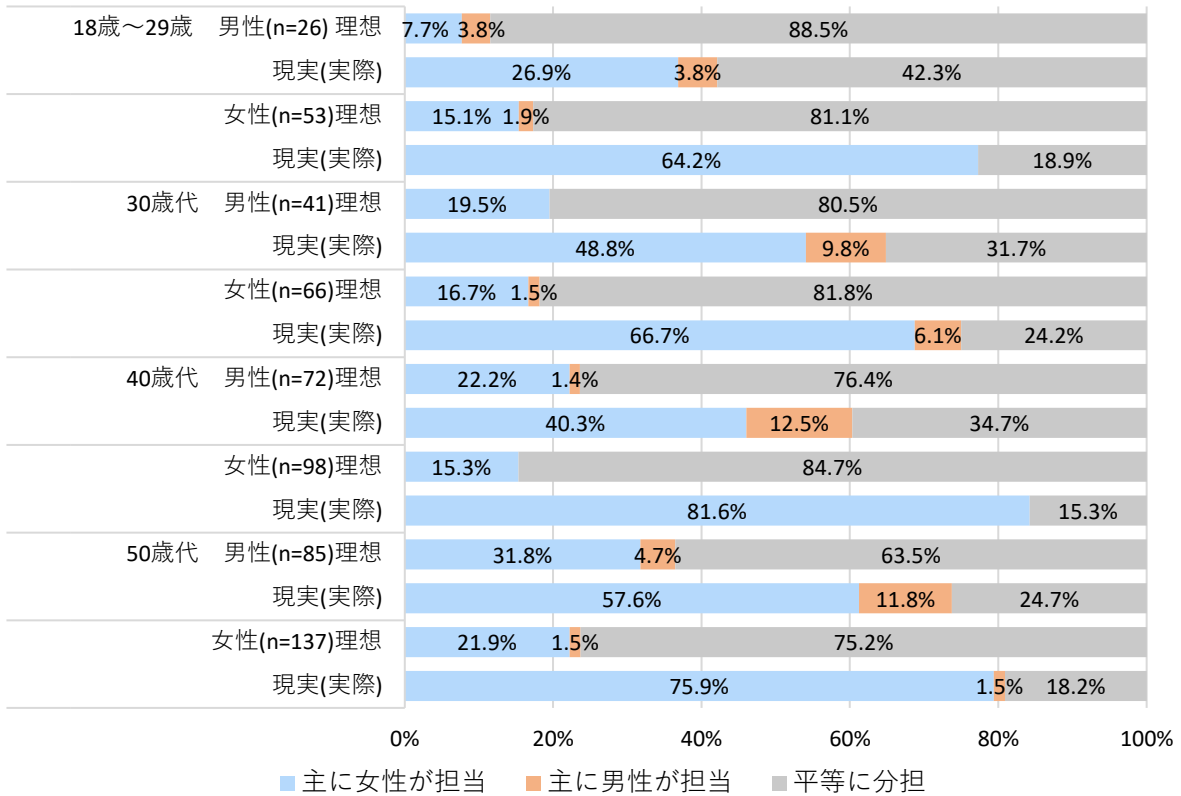
【現実（実際）：性別】 ※性別は「どちらでもない・無回答」を除く



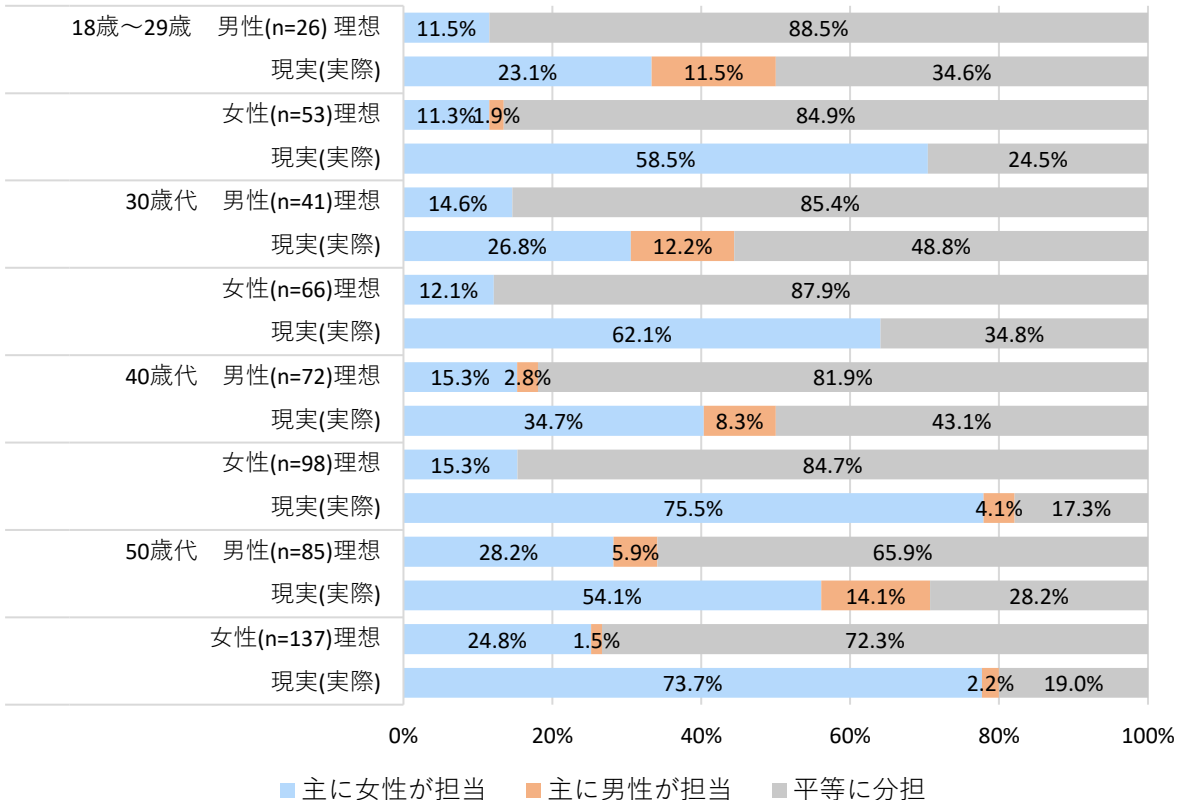
性別で見ると、「1. 料理・食事の片付け」において、理想では男女とも3割弱の方が「主に男性が担当」と回答しているのに対し、現実（実際）では男性においては10.7%の回答、女性においては1.7%の割合と低い結果となっている。反対に「3. ゴミ出し」、「10. 地域行事への参加」、「11. 地域の役員」の現実（実際）では、「主に男性が担当」の割合が理想よりも高い割合となっている。

【性別・年代別の状況】

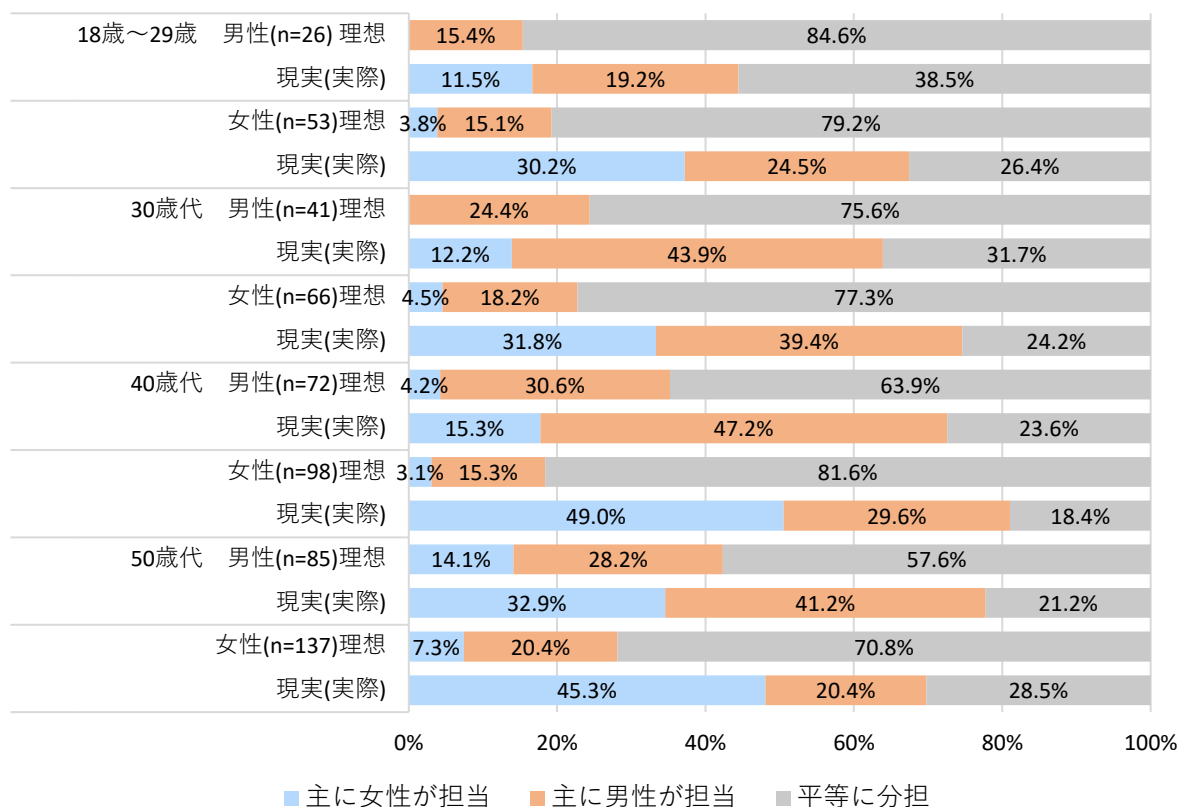
1. 料理・食事の片付け



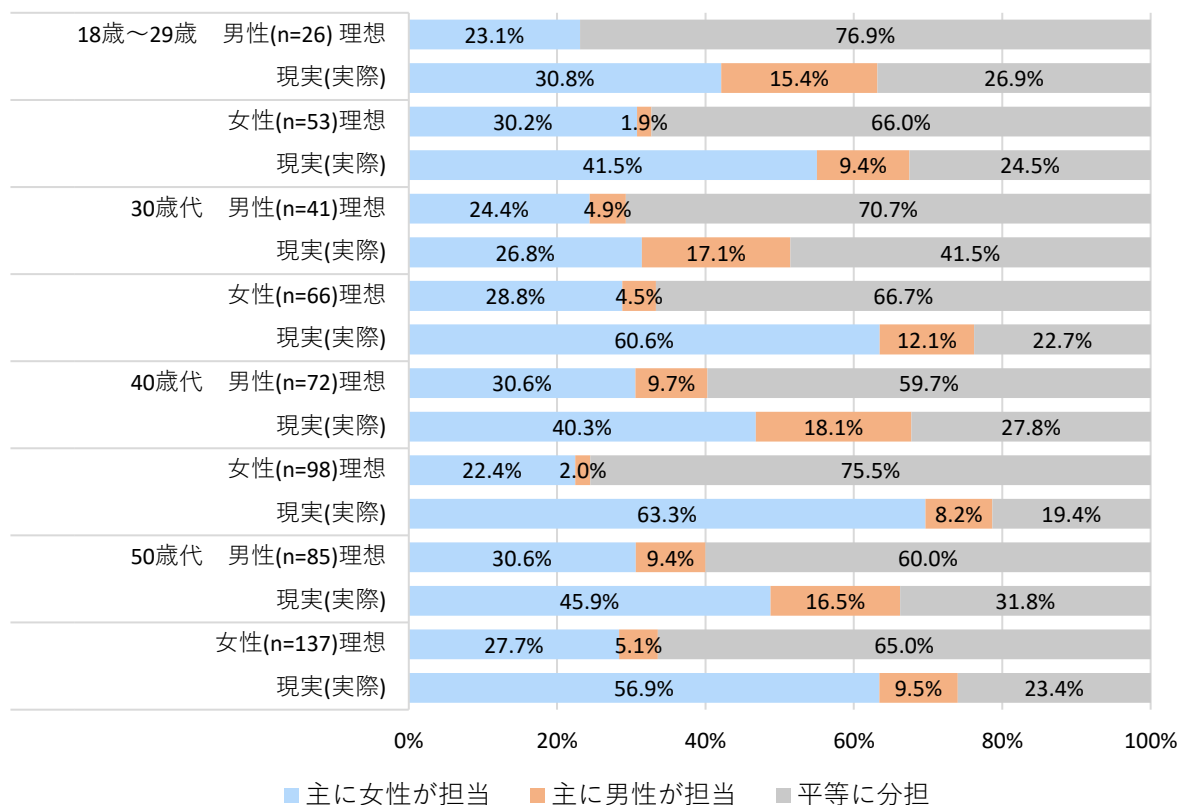
2. 掃除・洗濯



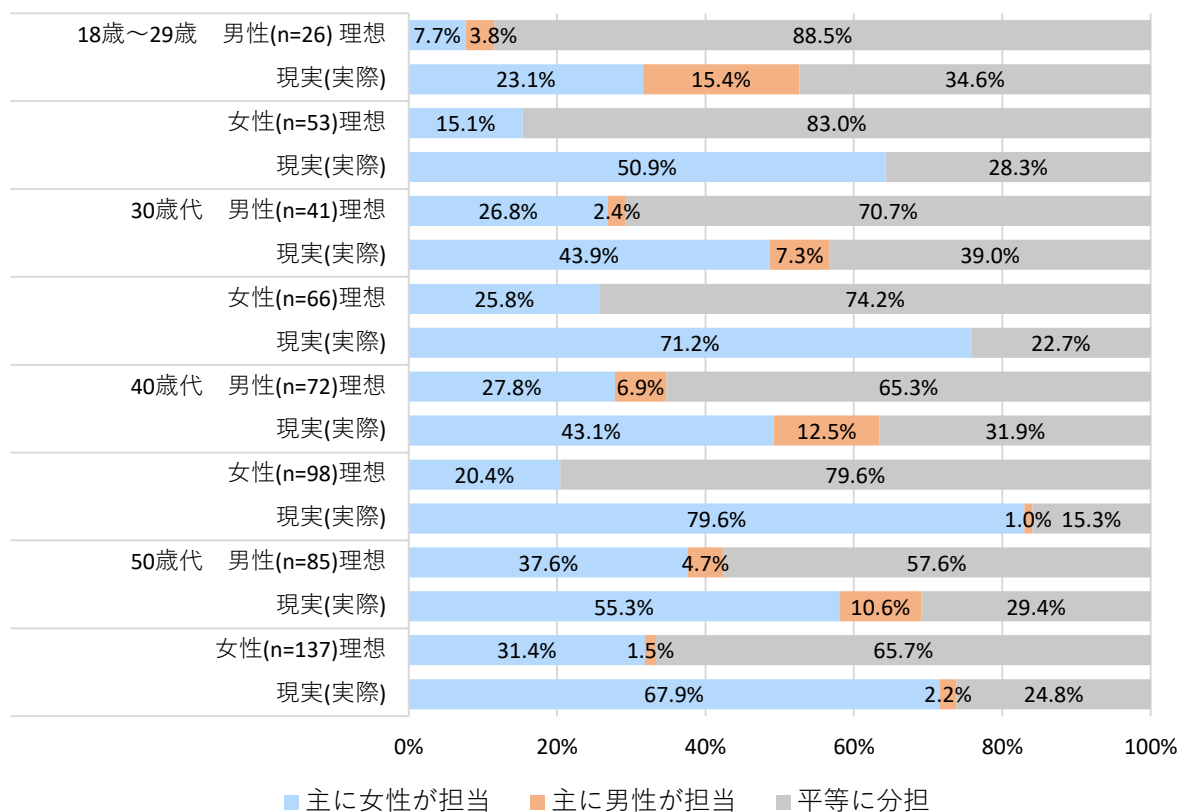
3. ゴミ出し



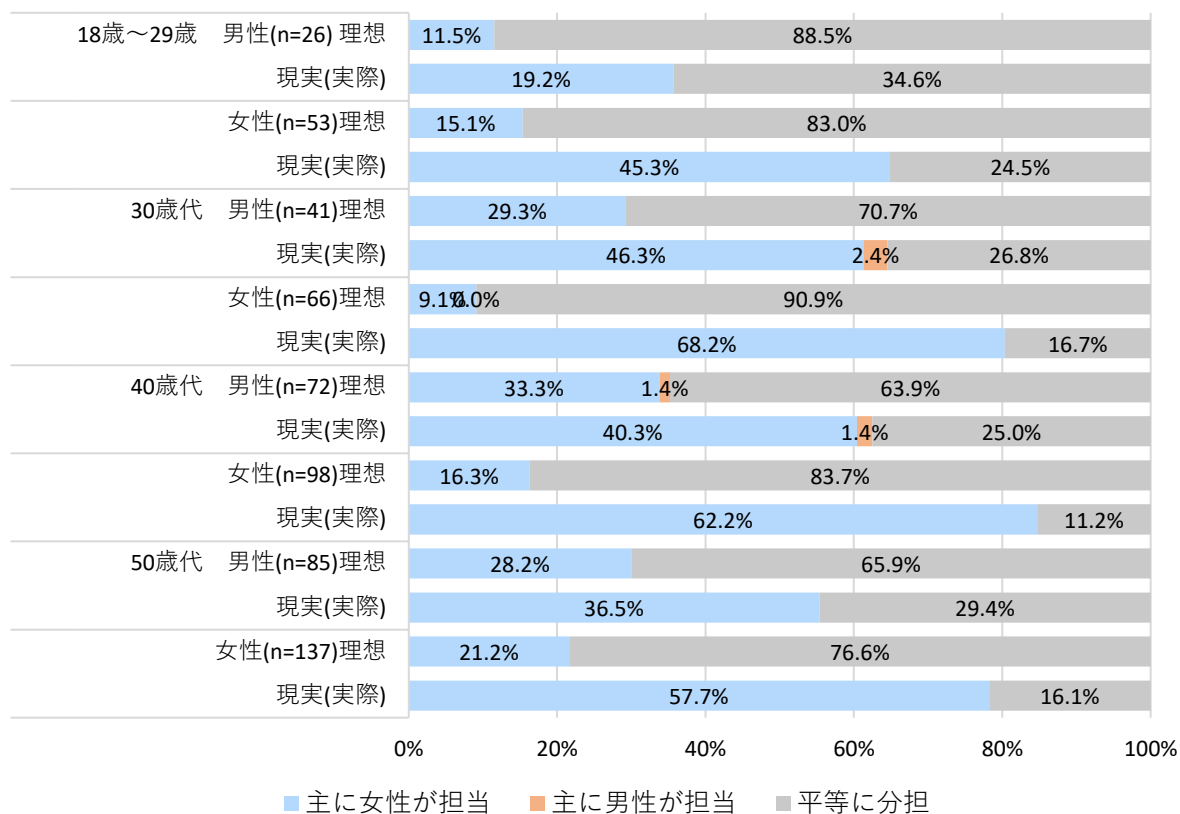
4. 家計の管理



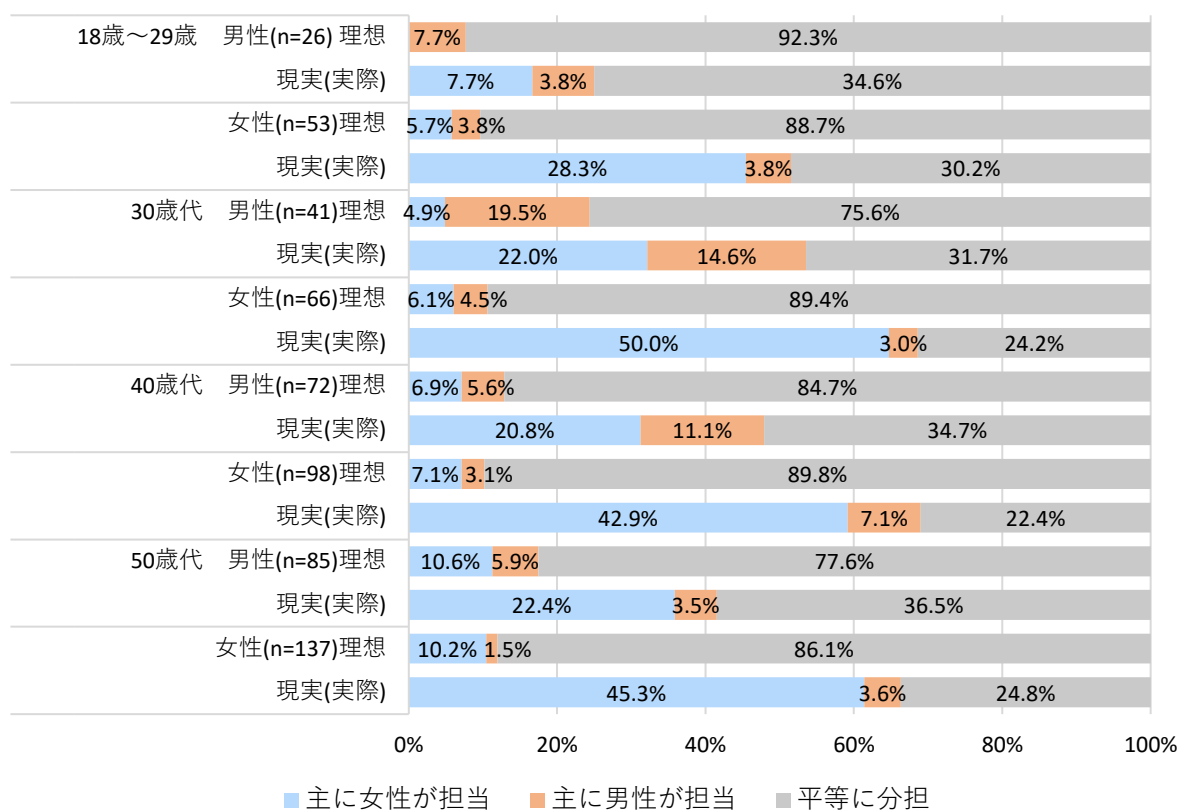
5. 食料品などの買い物



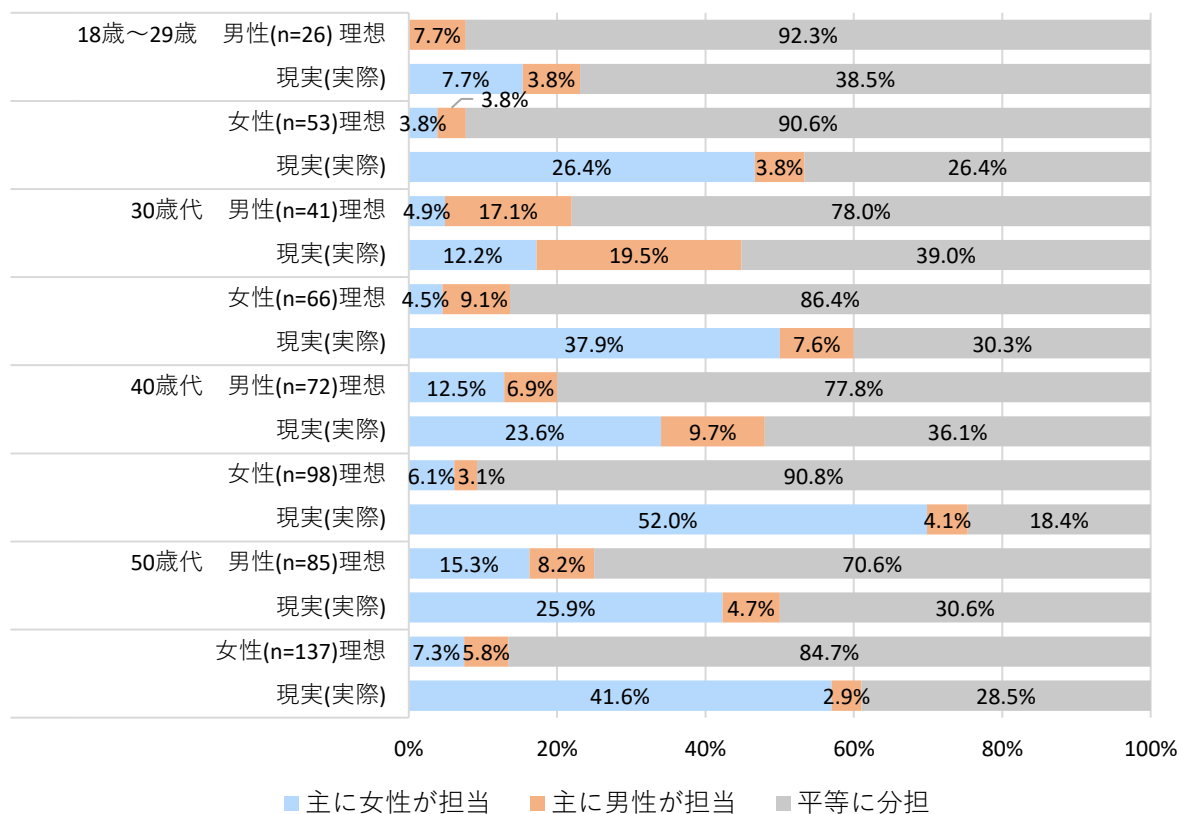
6. 育児（乳幼児）



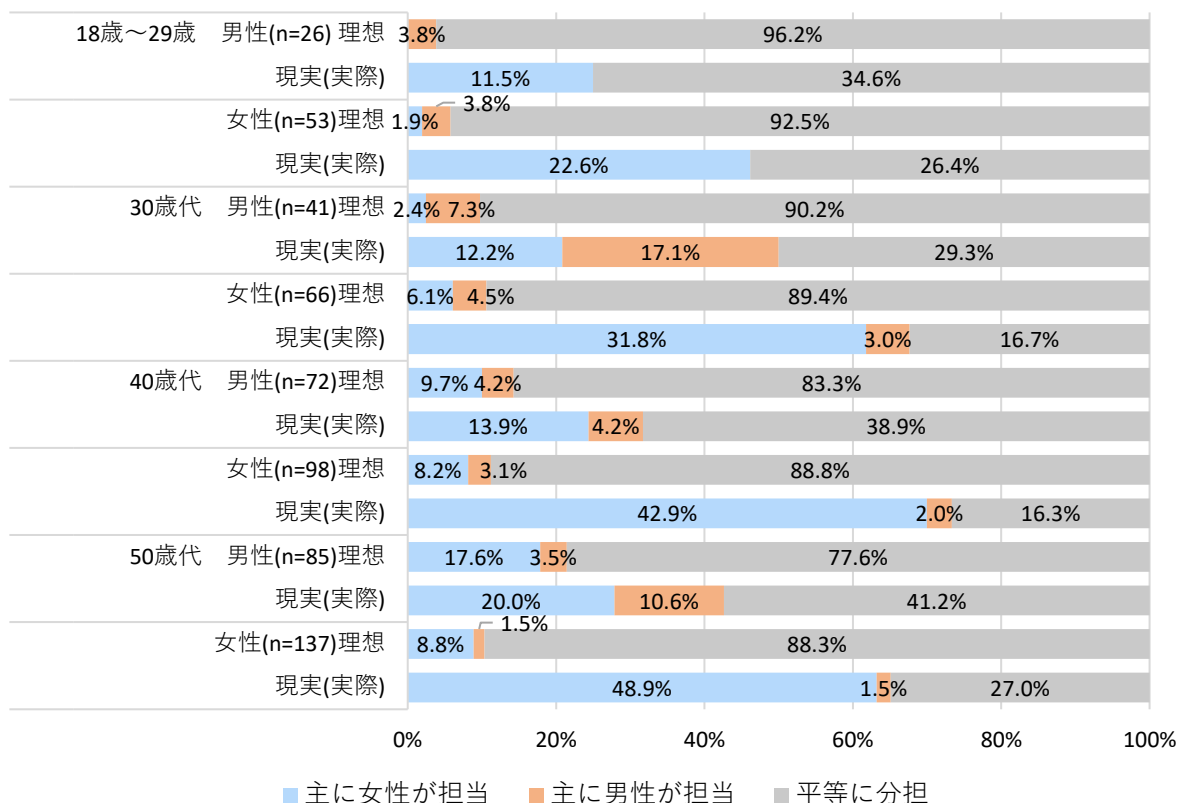
7. 子どもの送迎（塾や習い事など）



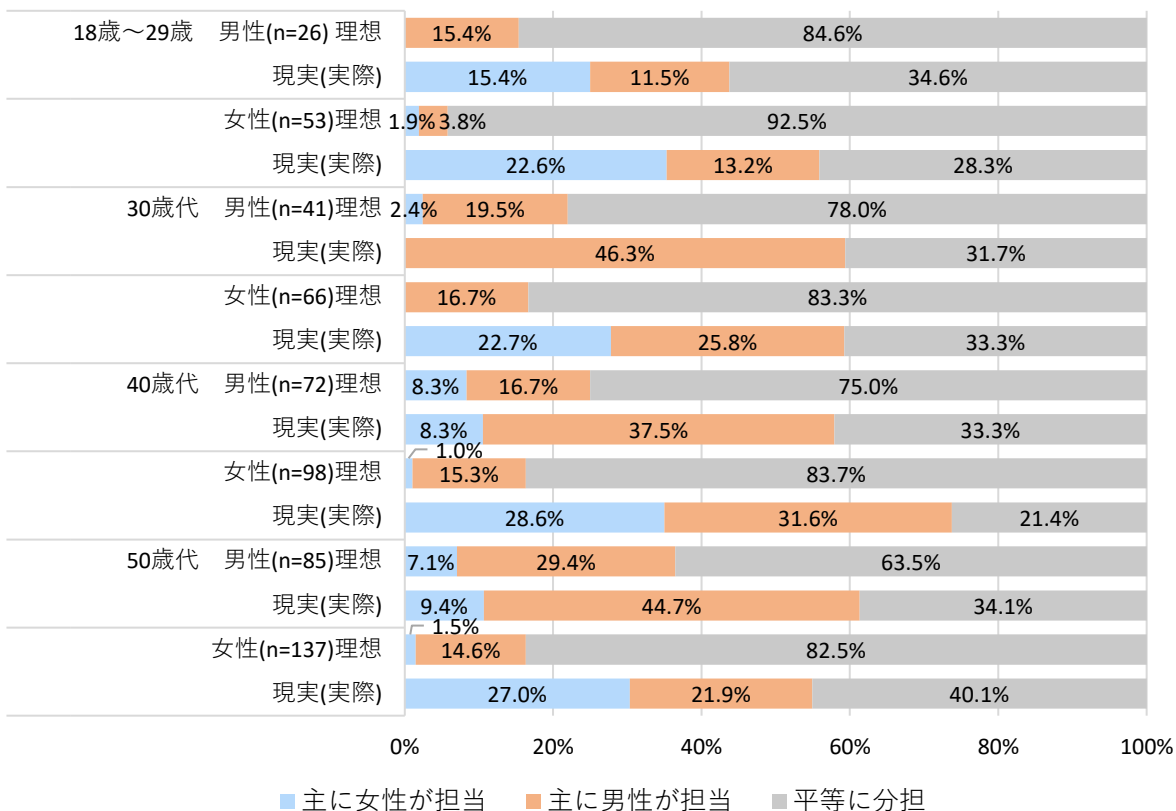
8. PTA活動や子どもの学校行事への出席



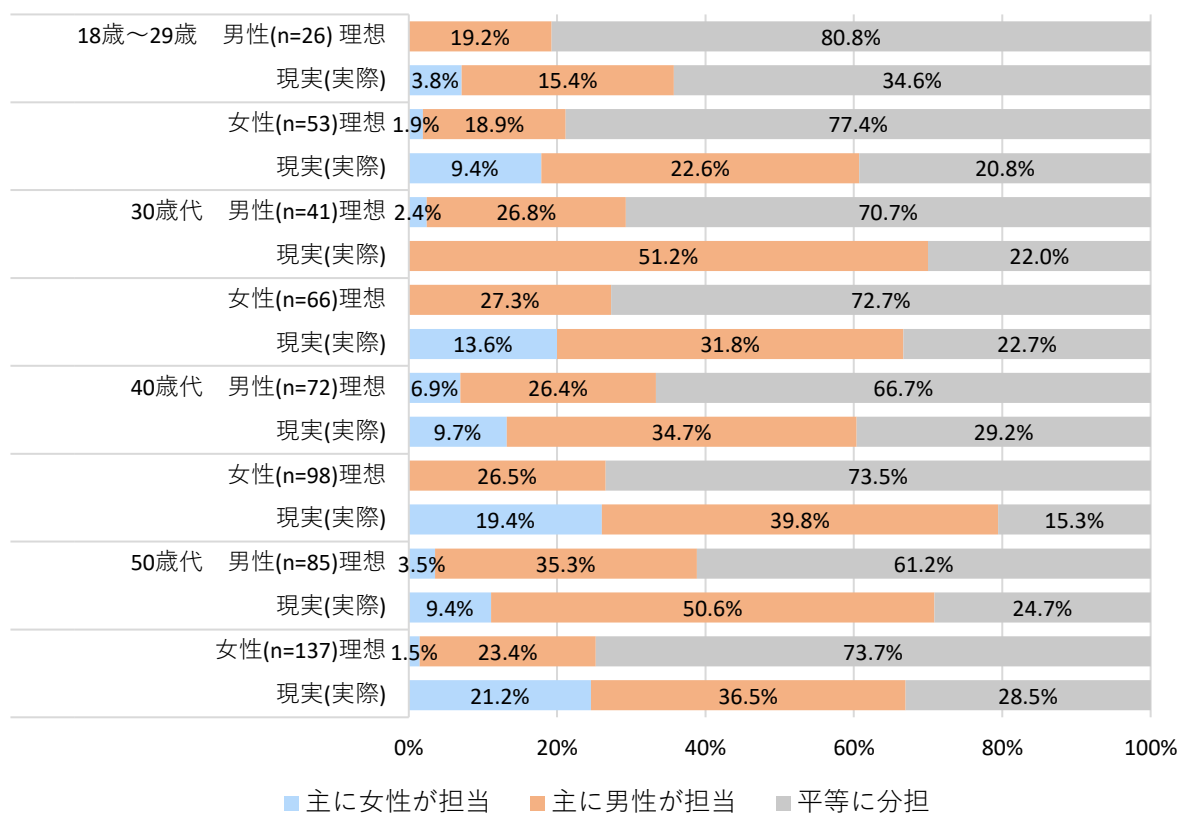
9. 高齢者や介護を必要とする方への援助



10. 地域行事への参加

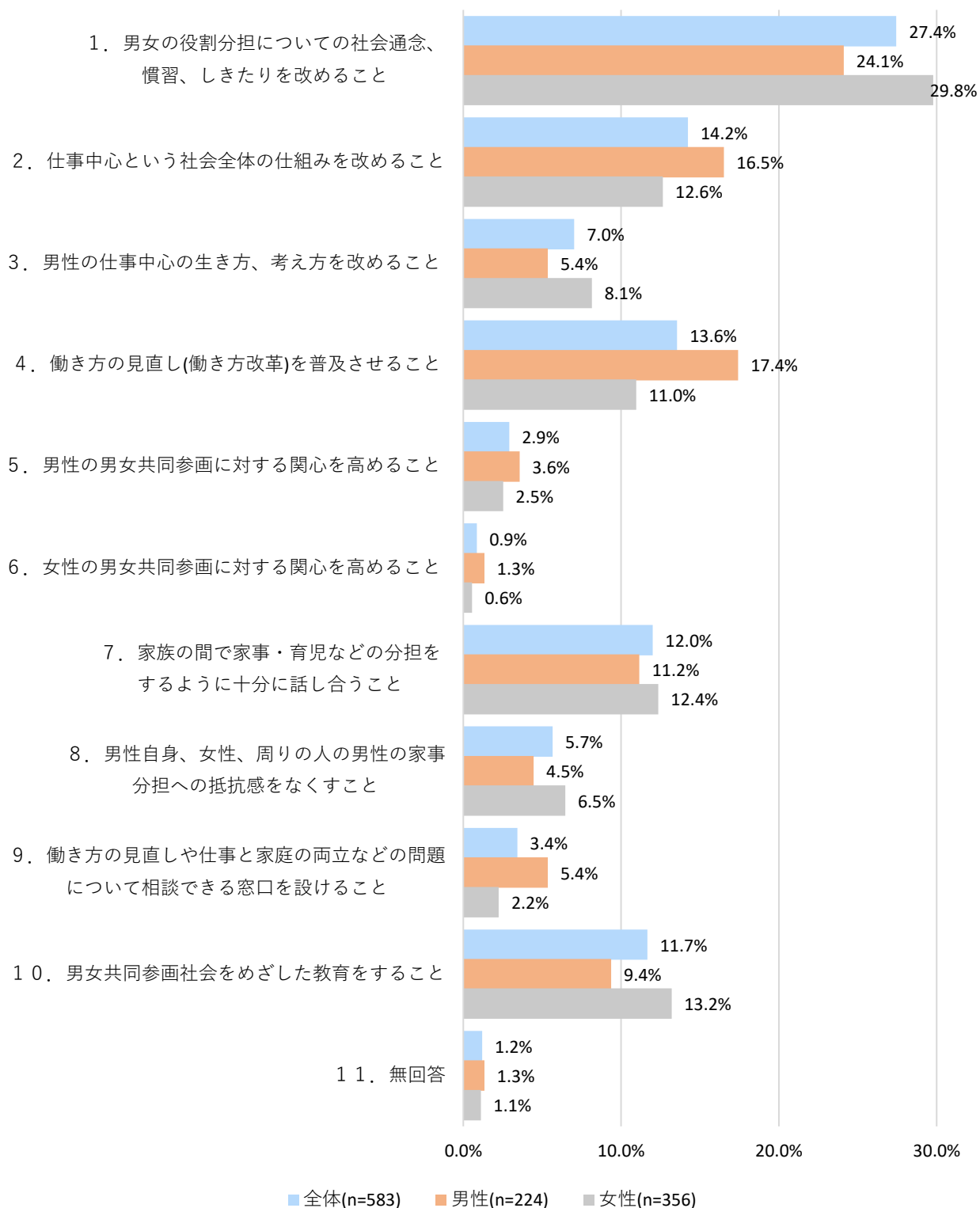


11. 地域の役員



(3) 男性が家庭・地域活動へ参加するために必要なこと

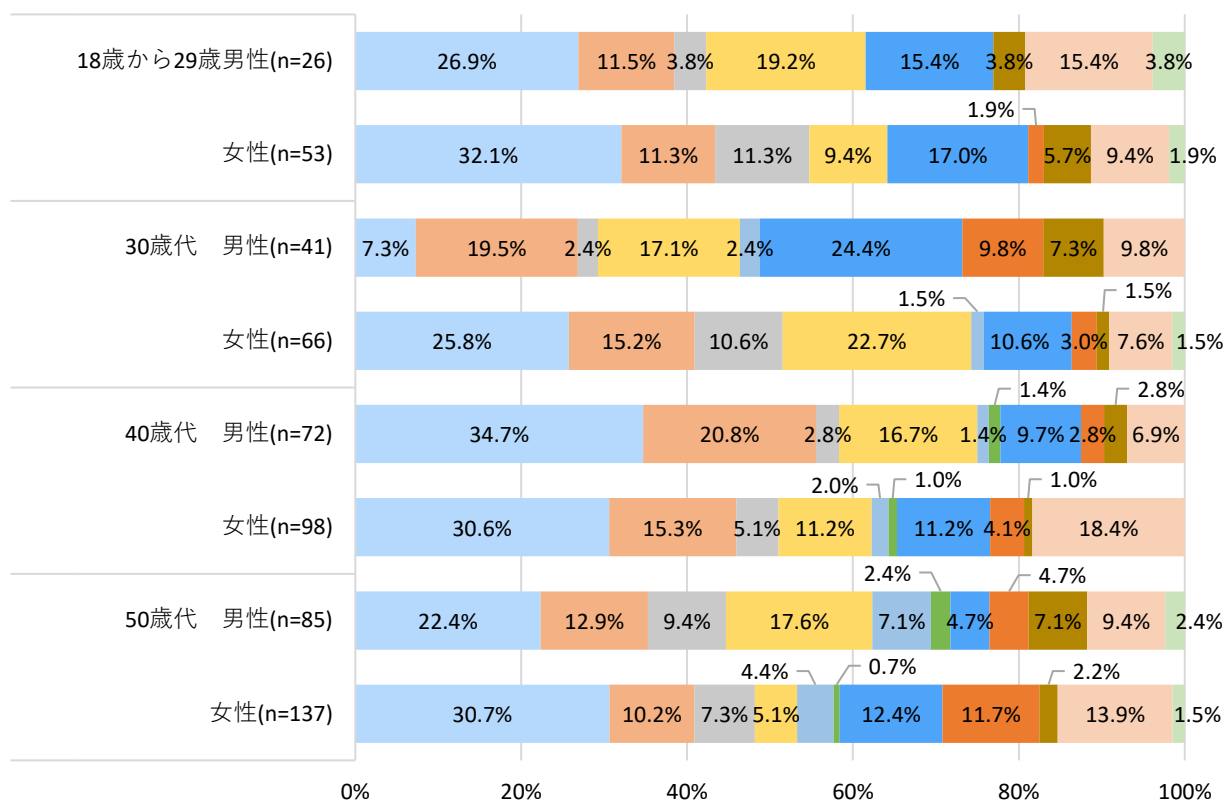
問 12 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが最も必要だと思いますか。【〇は1つ】



全体・性別ともに「1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合が最も高く、次に全体では「2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」、男性では「4. 働き方の見直し（働き方改革）を普及させること」、女性では「10. 男女共同参画社会をめざした教育をすること」となっている。

性別・年代別でみると、30歳代男性においては「7. 家族の間で家事・育児などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が最も高くなっている。

※性別・年代別の状況

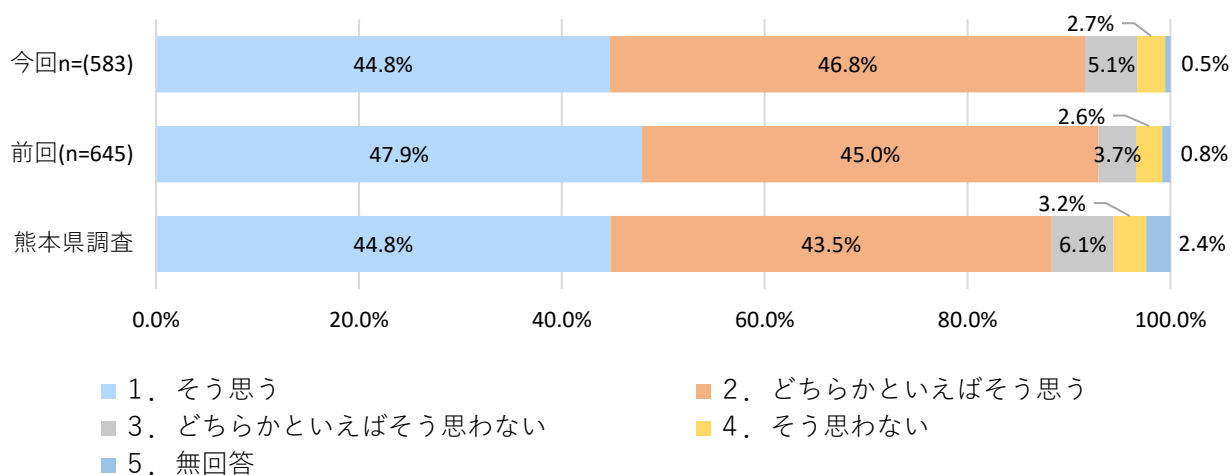


- 1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
- 3. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
- 4. 働き方の見直し(働き方改革)を普及させること
- 5. 男性の男女共同参画に対する関心を高めること
- 6. 女性の男女共同参画に対する関心を高めること
- 7. 家族の間で家事・育児などの分担をするように十分に話し合うこと
- 8. 男性自身、女性、周りの人の男性の家事分担への抵抗感をなくすこと
- 9. 働き方の見直しや仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること
- 10. 男女共同参画社会をめざした教育をすること
- 11. 無回答

3. 女性の社会参画について

(1) 政策の企画立案や方針決定の場への女性の参画拡大

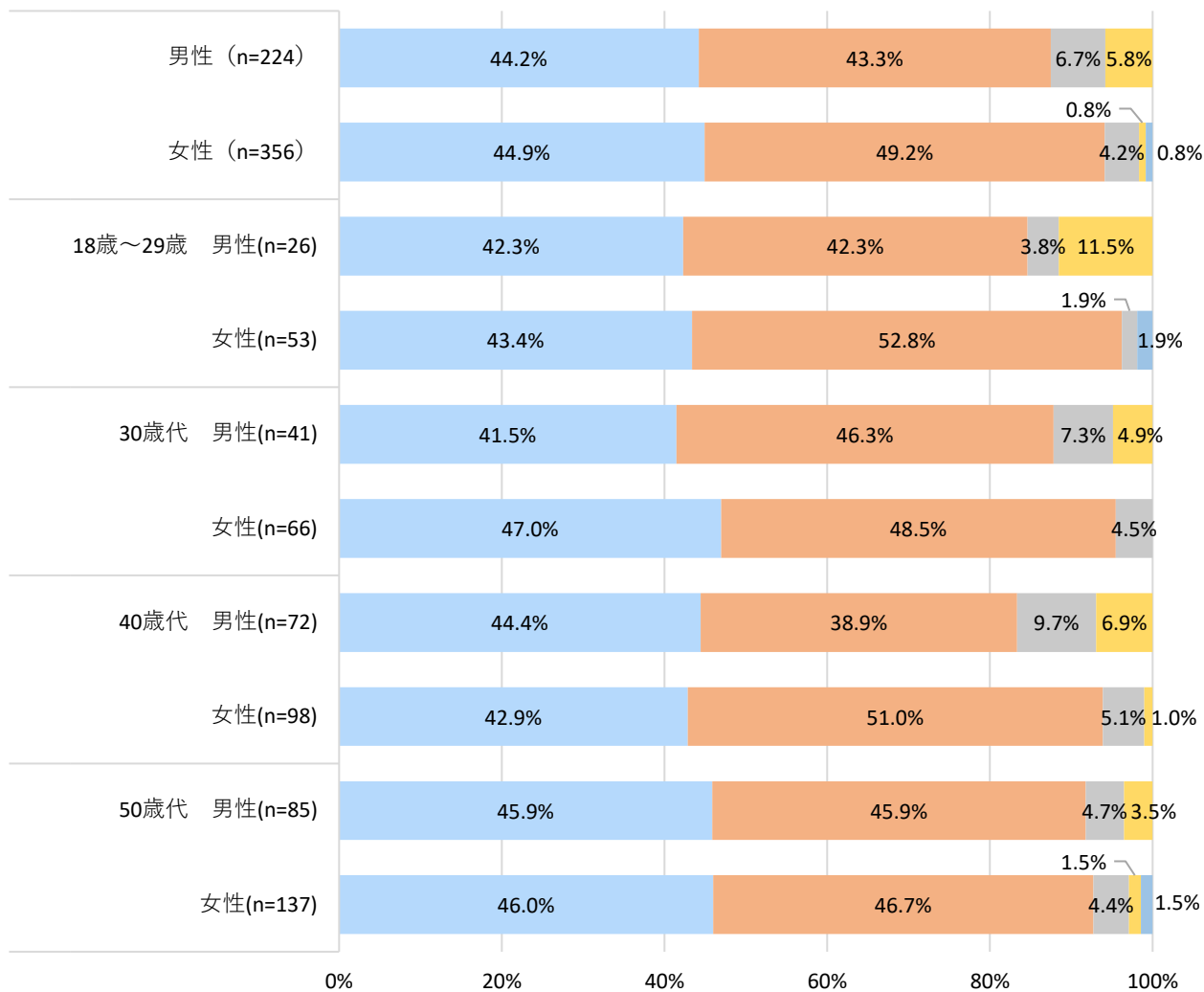
問 13 あなたは、女性の意見がもっと政治に等に反映されるように、自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や団体の役員など、政策の企画立案や方針決定の場に女性が増える方がよいと思いますか。【〇は1つ】



「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方の割合は9割を超えており、多くの方が女性の社会参画を支持する結果となっている。

性別・年代別にみても特に差異はなく、性別や年代を問わず女性の社会参画は支持されている。

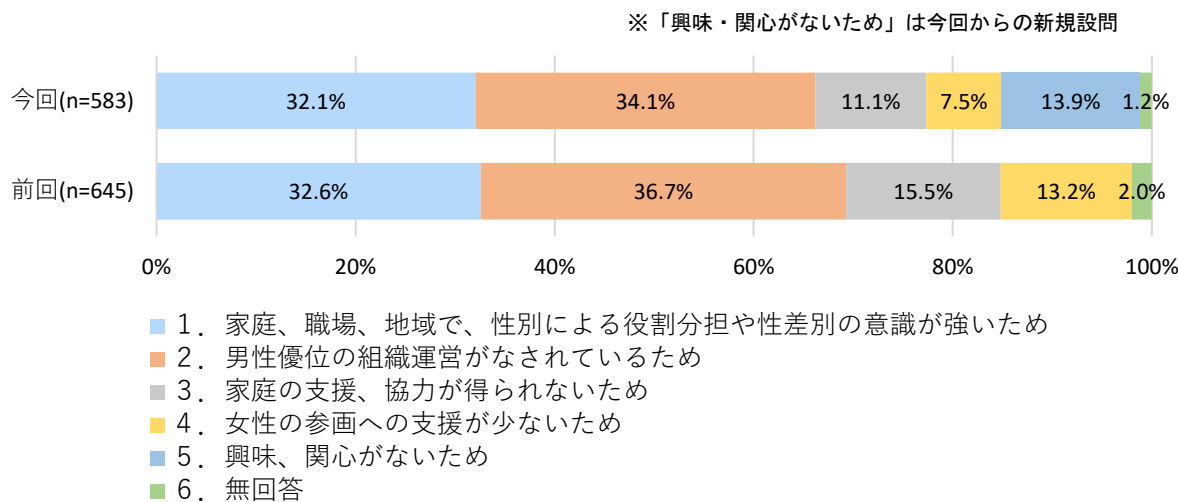
※性別・年代別の状況



- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. 無回答

(2) 企画立案や方針決定の場に女性が少ない原因

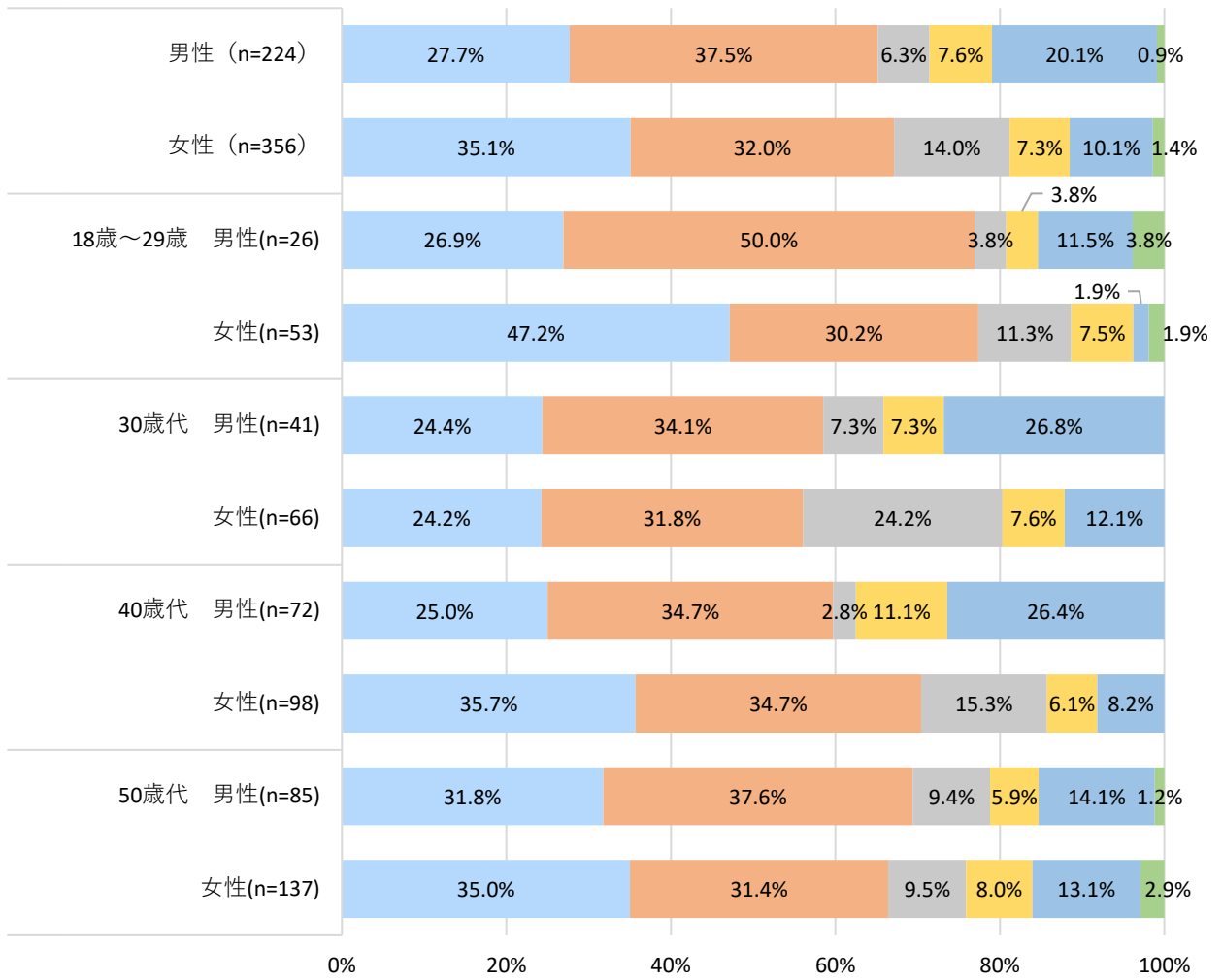
問 14 政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画が遅れている原因は何だと思いますか。【〇は1つ】



前回調査と変わらず「2. 男性優位の組織運営がなされているため」(34.1%)の割合が最も高く、次いで「1. 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(32.1%)の割合が高い。今回の調査から設問に「5. 興味、関心がないため」を追加し、その割合は13.9%と3番目に高い結果となった。

性別・年代別にみると、「5. 興味、関心がないため」と答えた方の割合は、女性よりも男性の割合が高く、男女間の意識の差が見受けられる。

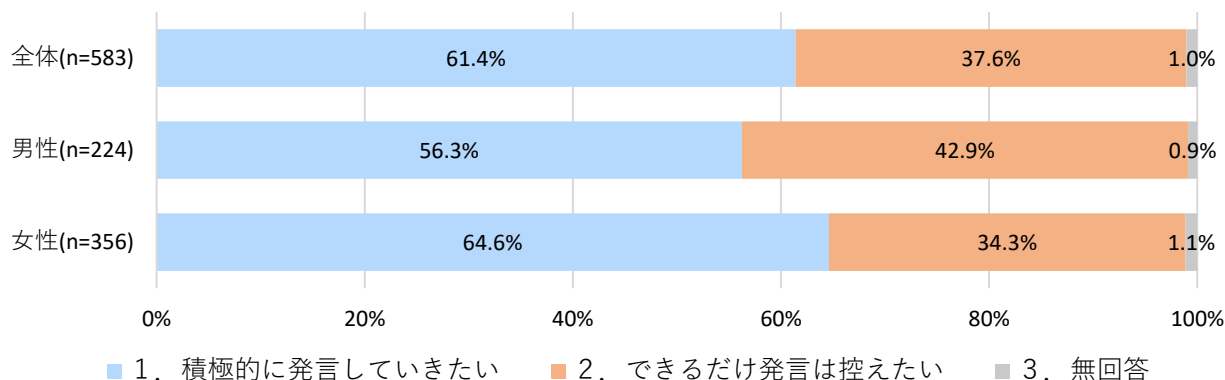
※性別・年代別



- 1. 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため
- 2. 男性優位の組織運営がなされているため
- 3. 家庭の支援、協力が得られないため
- 4. 女性の参画への支援が少ないため
- 5. 興味、関心がないため
- 6. 無回答

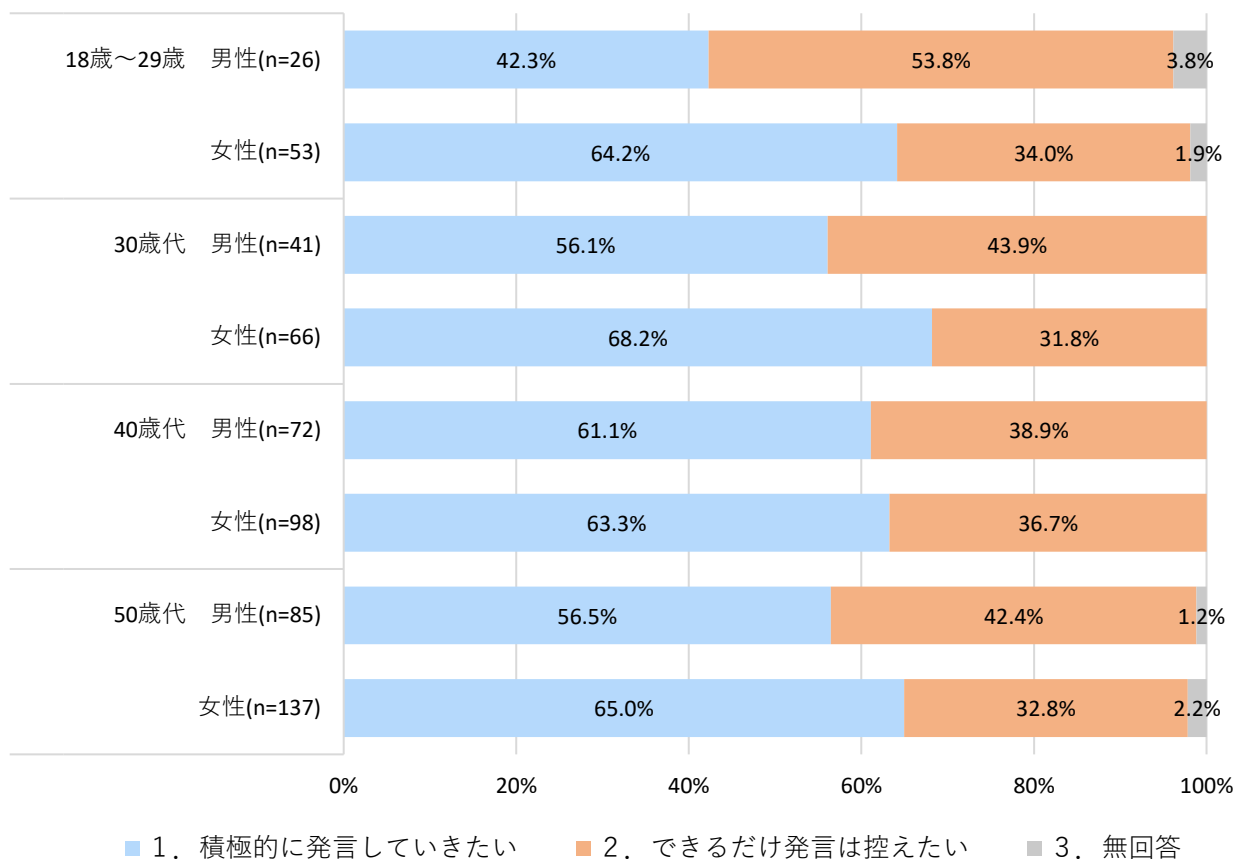
(3) 企画立案や方針決定の場での参画意識

問 15-① 政治、行政、職場等で、あなたが企画立案や方針決定の場のメンバーになった場合、どのように行動すると思いますか。【〇は1つ】



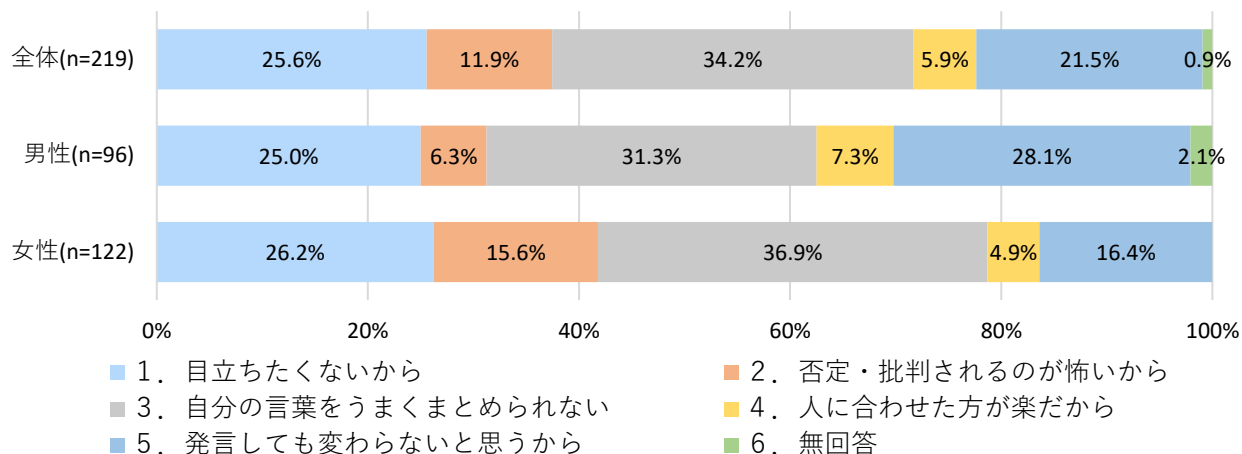
全体では、6割の方が「積極的に発言していきたい」と答えている。性別では、「できるだけ発言は控えたい」と答えた割合は男性の方が高く、年代別をみると18歳～29歳の男性の割合が高い。

※性別・年代別



(4) 発言を控えたい理由

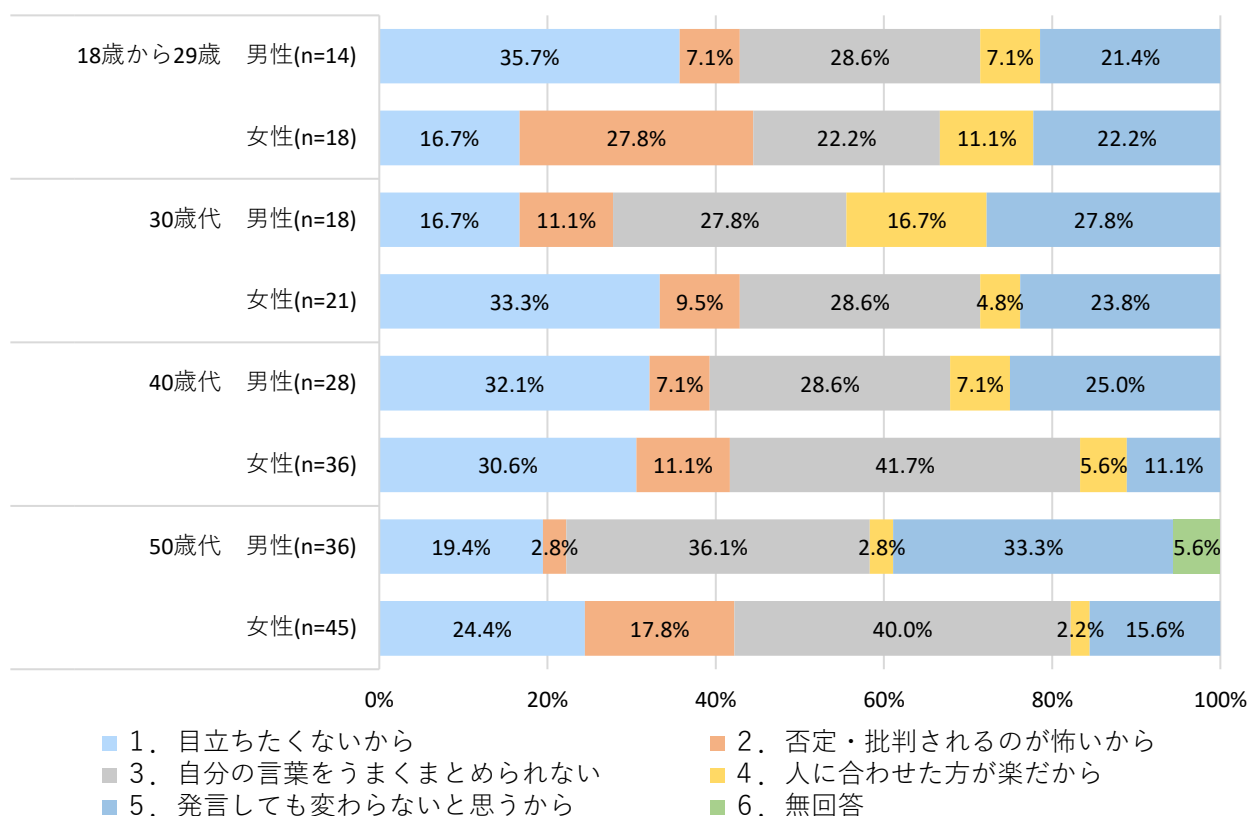
問 15-② 「できるだけ発言を控えたい」と答えた方にお尋ねします。そのように感じた理由はなんですか。【〇は1つ】



全体では、「自分の言葉をうまくまとめられない」(34.2%)と答えた割合が最も高く、性別でみても同様の結果である。次いで、男性では「発言しても変わらないと思うから」(28.1%)の割合が高いのに対し、女性では「目立ちたくないから」(26.2%)の割合が高い。

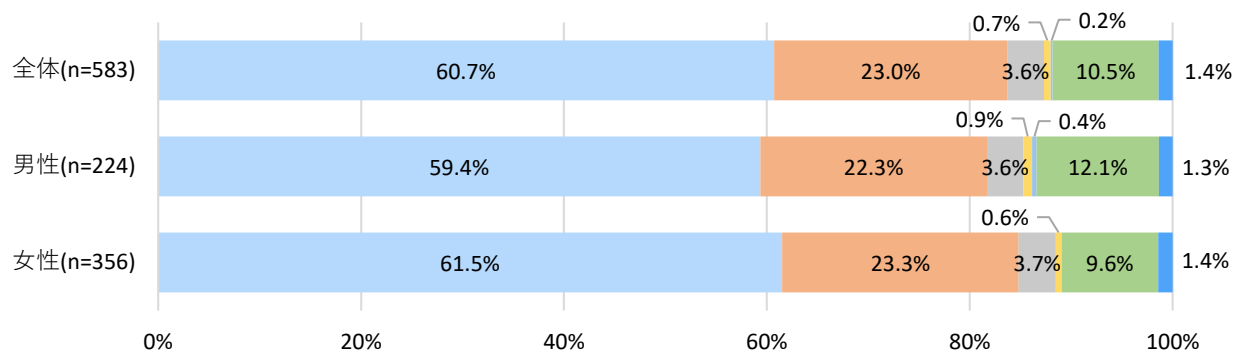
年代別にみると40歳代・50歳代の女性で「3. 自分の言葉をうまくまとめられない」の割合が4割と最も高くなっている。

※性別・年代別



(5) 女性の働き方について

問 16 女性の働き方について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。【〇は1つ】

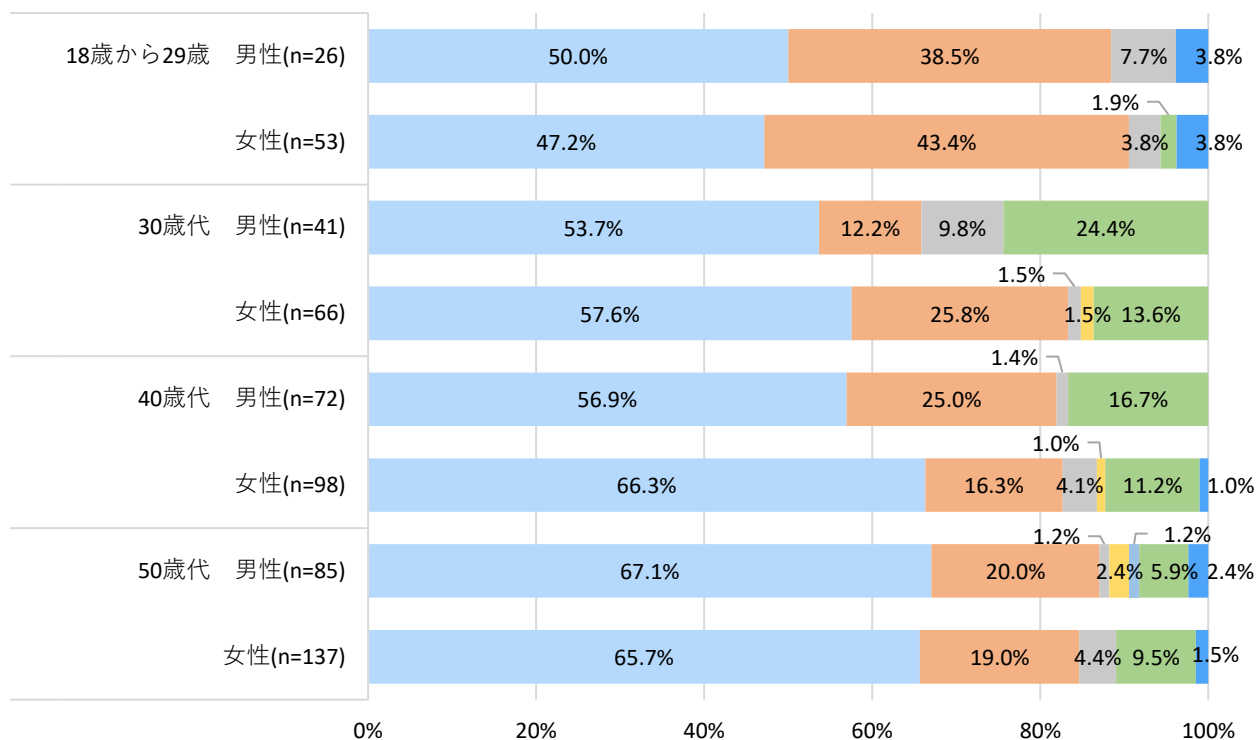


- 1. こどもができて、仕事を続ける方がよい
- 2. こどもができたなら仕事を辞めて、大きくなったら再び働く方がよい
- 3. こどもができるまでは、仕事を続ける方がよい
- 4. 結婚するまでは、仕事を続ける方がよい
- 5. 女性は仕事をしない方がよい
- 6. その他
- 7. 無回答

全体では「1. こどもができて、仕事を続ける方がよい」(60.7%)が6割と最も高く、性別でみても同様である。

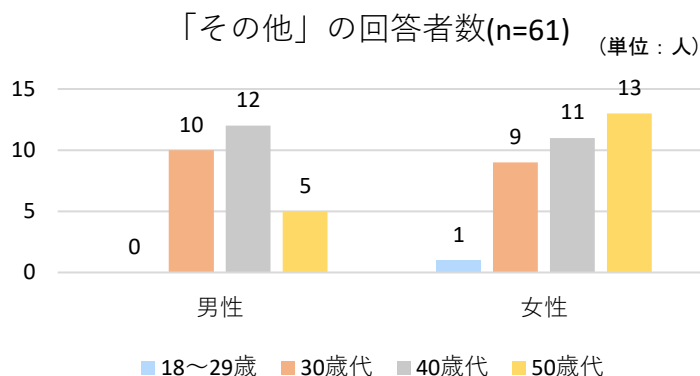
年代別で見ると、18歳から29歳では「2. こどもができたなら仕事を辞めて、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が他の年代と比較すると高い結果となっている。

※性別：・年代別



- 1. こどもができて、仕事を続ける方がよい
- 2. こどもができたら仕事を辞めて、大きくなったら再び働く方がよい
- 3. こどもができるまでは、仕事を続ける方がよい
- 4. 結婚するまでは、仕事を続ける方がよい
- 5. 女性は仕事をしない方がよい
- 6. その他
- 7. 無回答

※「その他」の意見

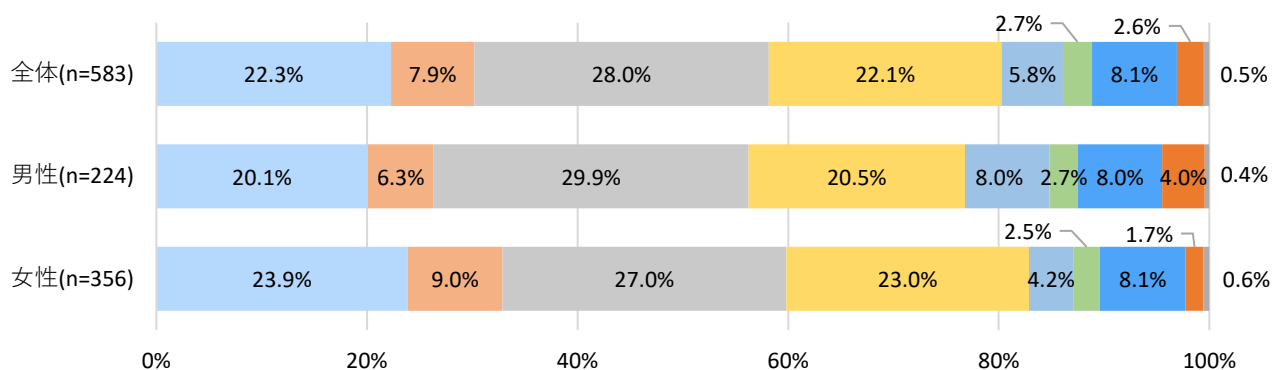


【主な意見】

- ・ 本人の希望に沿った働き方をすればよい (30歳代 男性)
- ・ 夫婦間で決めればよい。男女で差別区別する事はないし、このような働き方でないといけないという事はない。(40歳代 男性)
- ・ 経済的状況等、各家庭の状況によって決めればよい。(50歳代 男性)
- ・ 金銭面を考慮し、相手と相談して働くとよい。(18～29歳代 女性)
- ・ 個人の自由。各々考え方が違うから。(30歳代 女性)
- ・ 子どもの成長の状況により、働くかどうかを自分の意思で選べるとよい。(30歳代 女性)
- ・ 家庭や仕事の優先順位は人や場面で違うので様々な働き方で良いと思う。(40歳代 女性)
- ・ 女性が自由に選択できる働き方 (50歳代 女性)
- ・ 環境や本人の体力・資質によるので一概に言えない。(50歳代 女性)

(6) 女性が離職後、再就職するために必要なこと

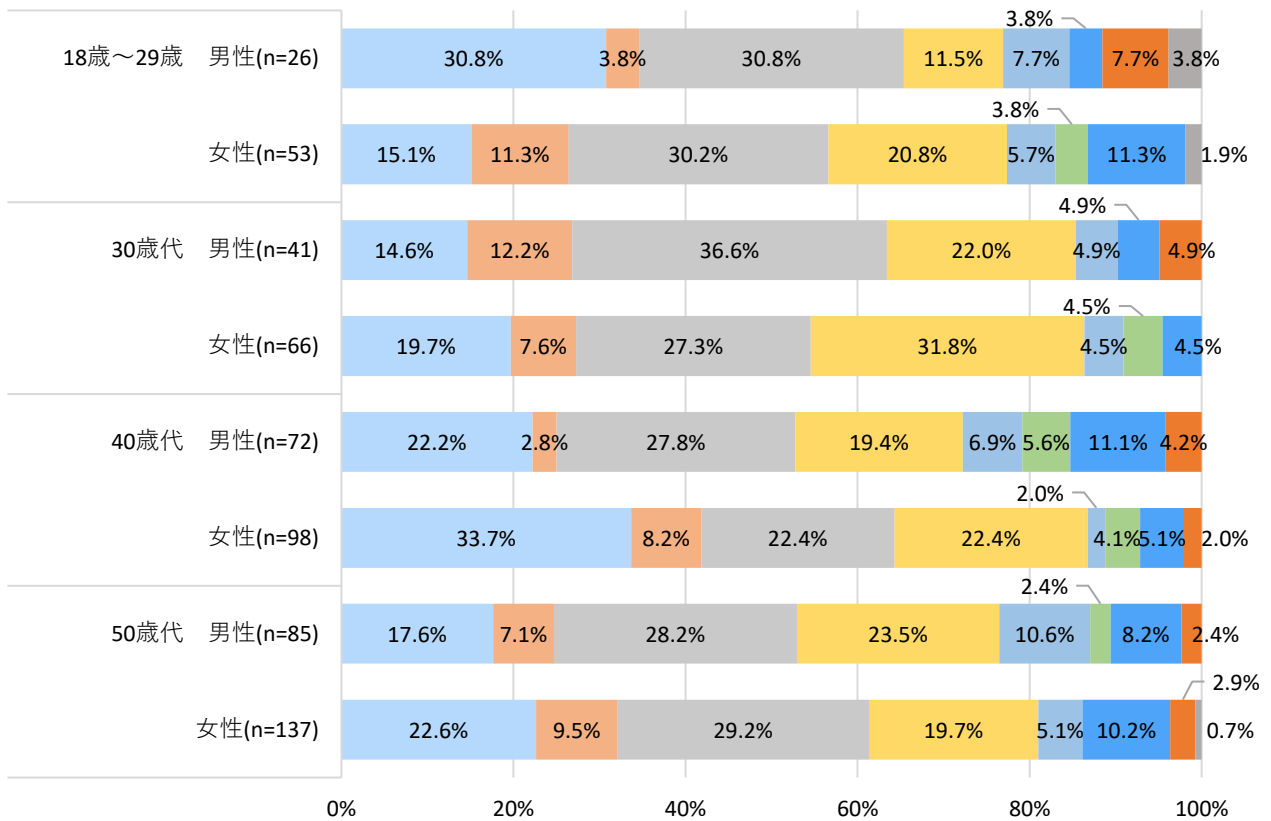
問 17 女性が結婚や出産、育児、介護のために仕事をやめ、その後再就職するために最も必要なことは何だと思えますか。【○は1つ】



- 1. 家族の理解や家事、育児、介護等への参加
- 2. 妊娠(不妊治療)、出産、育児、介護のための施設やサービスの充実
- 3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度も充実
- 4. 休暇制度を利用しやすい職場環境の整備
- 5. 女性の再就職などに関する相談窓口や情報提供の充実
- 6. 技能、技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
- 7. 退職者の再雇用制度の充実と促進
- 8. その他
- 9. 無回答

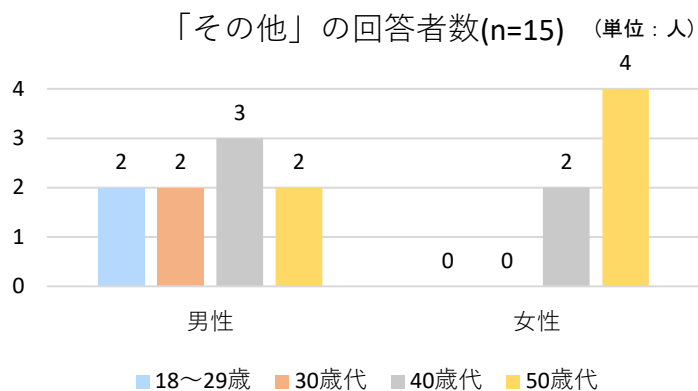
全体では、「3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度も充実」(28.0%)の割合が最も高く、次いで「1. 家族の理解や家事、育児、介護等への参加」(22.3%)、「4. 休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」(22.1%)の順となっている。性別や年代別でも、これらの回答が上位を占めている。

※性別・年代別



- 1. 家族の理解や家事、育児、介護等への参加
- 2. 妊娠(不妊治療)、出産、育児、介護のための施設やサービスの充実
- 3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度も充実
- 4. 休暇制度を利用しやすい職場環境の整備
- 5. 女性の再就職などに関する相談窓口や情報提供の充実
- 6. 技能、技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
- 7. 退職者の再雇用制度の充実と促進
- 8. その他
- 9. 無回答

※「その他」の意見



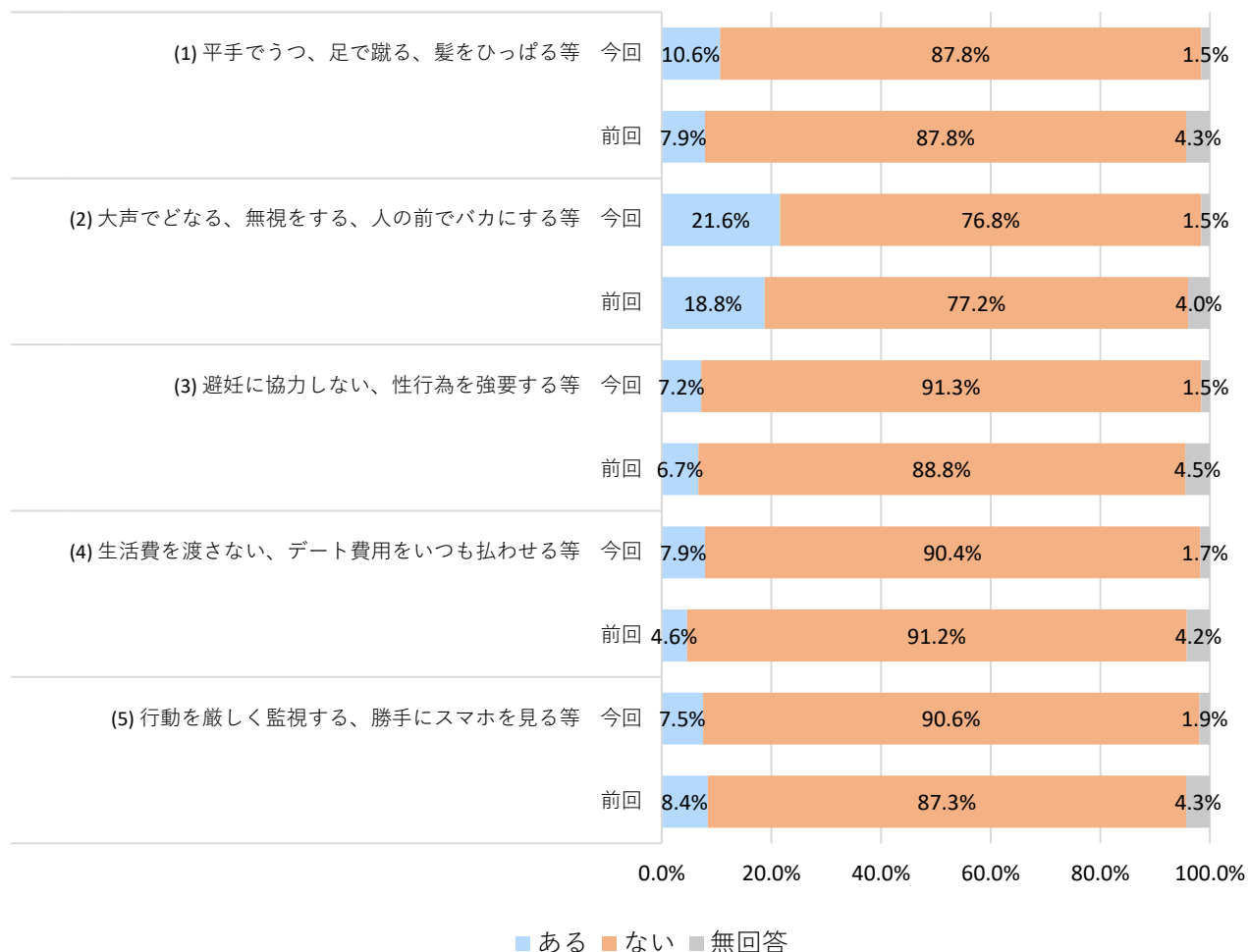
【主な意見】

- ・ 女性自身も復帰することへ意欲を持ち、仕事に必要なスキル等を学ぶ姿勢が必要 (18～29歳代 男性)
- ・ 存在する制度を企業が従業員の末端まで浸透させる努力 (30歳代 男性)
- ・ 男性パートナーの意識改革 (40歳代 女性)
- ・ 男性が正しい出産、育児、介護、家事を学ぶ機会 (50歳代 女性)

4. 配偶者等からの暴力について

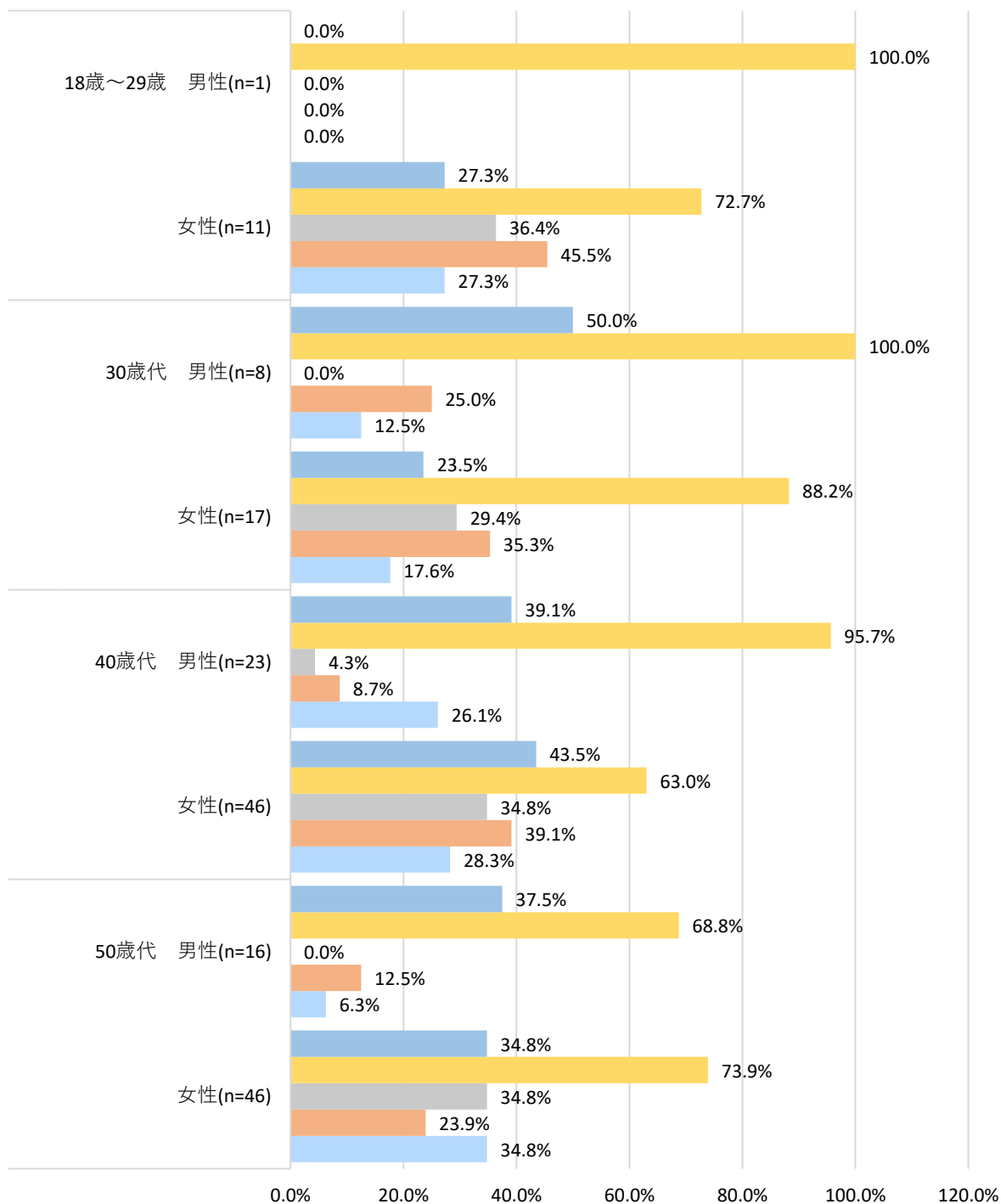
(1) 被害経験の有無

問 18-① あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい関係にある相手との間で、次のようなDVにあたる行為をされたことがありますか。【どちらかに○】



被害経験では、「ある」と答えた割合が最も高かったのは「(2) 大声でどなる、無視する、人の前でバカにする等」(21.6%)、次いで「(1) 平手でうつ、足で蹴る、髪をひっぱる等」(10.6%)であった。

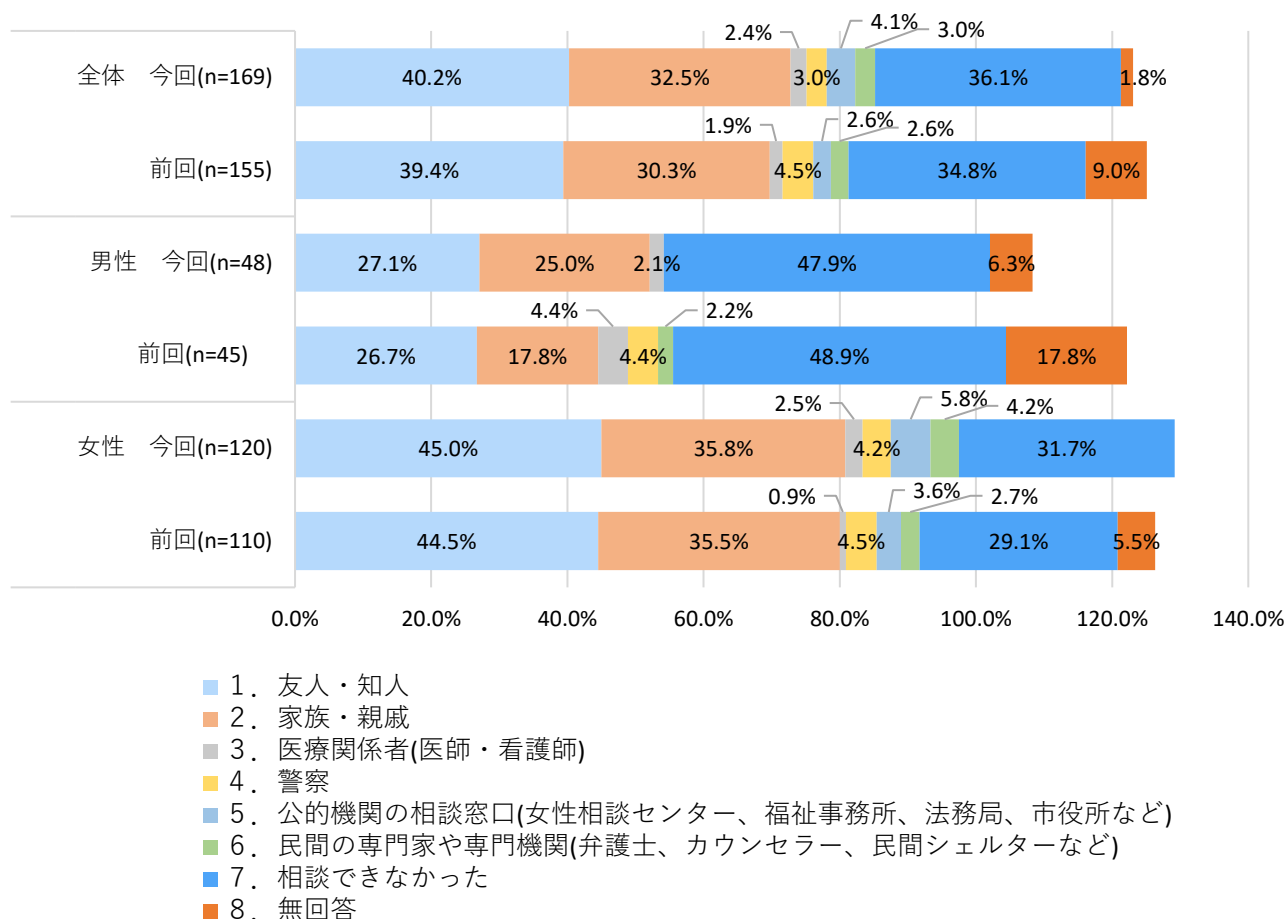
※被害経験の性別・年代別の状況



- (1) 平手でうつ、足で蹴る、髪をひっぱる等
- (2) 大声でどなる、無視をする、人の前でバカにする等
- (3) 避妊に協力しない、性行為を強要する等
- (4) 生活費を渡さない、デート費用をいつも払わせる等
- (5) 行動を厳しく監視する、勝手にスマホを見る等

(2) 被害の相談

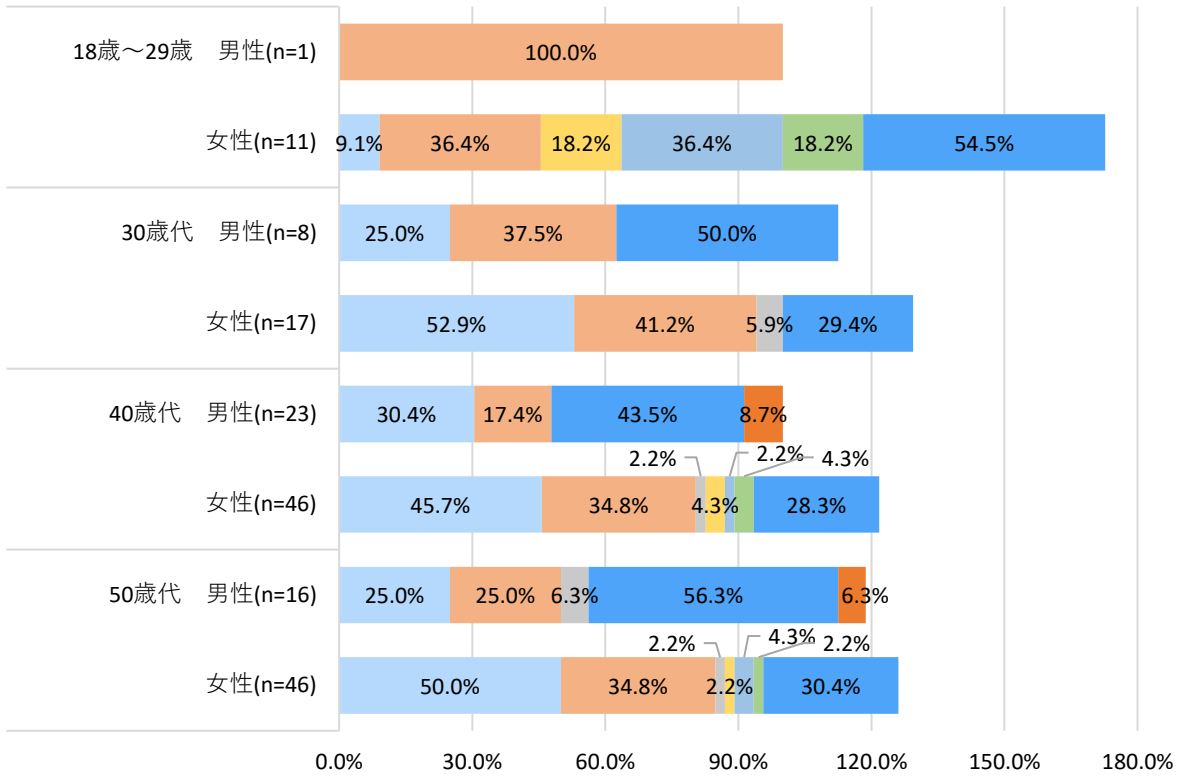
問 18-② 被害経験が「ある」と答えた方は、そのことを誰かに相談しましたか。
【あてはまるもの全てに○】



全体では、「(1)友人・知人」(40.2%)が最も高く、次いで「(7)相談できなかった」(36.1%)、「(2)家族・親戚」(32.5%)となっている。特に男性は、「相談出来なかった」割合が高く、女性と比較すると自身で抱え込んでしまう傾向であることが推察される。

なお、「公的機関の相談窓口」や「民間の専門家や専門機関の利用」の割合は、かなり低い結果となっている。

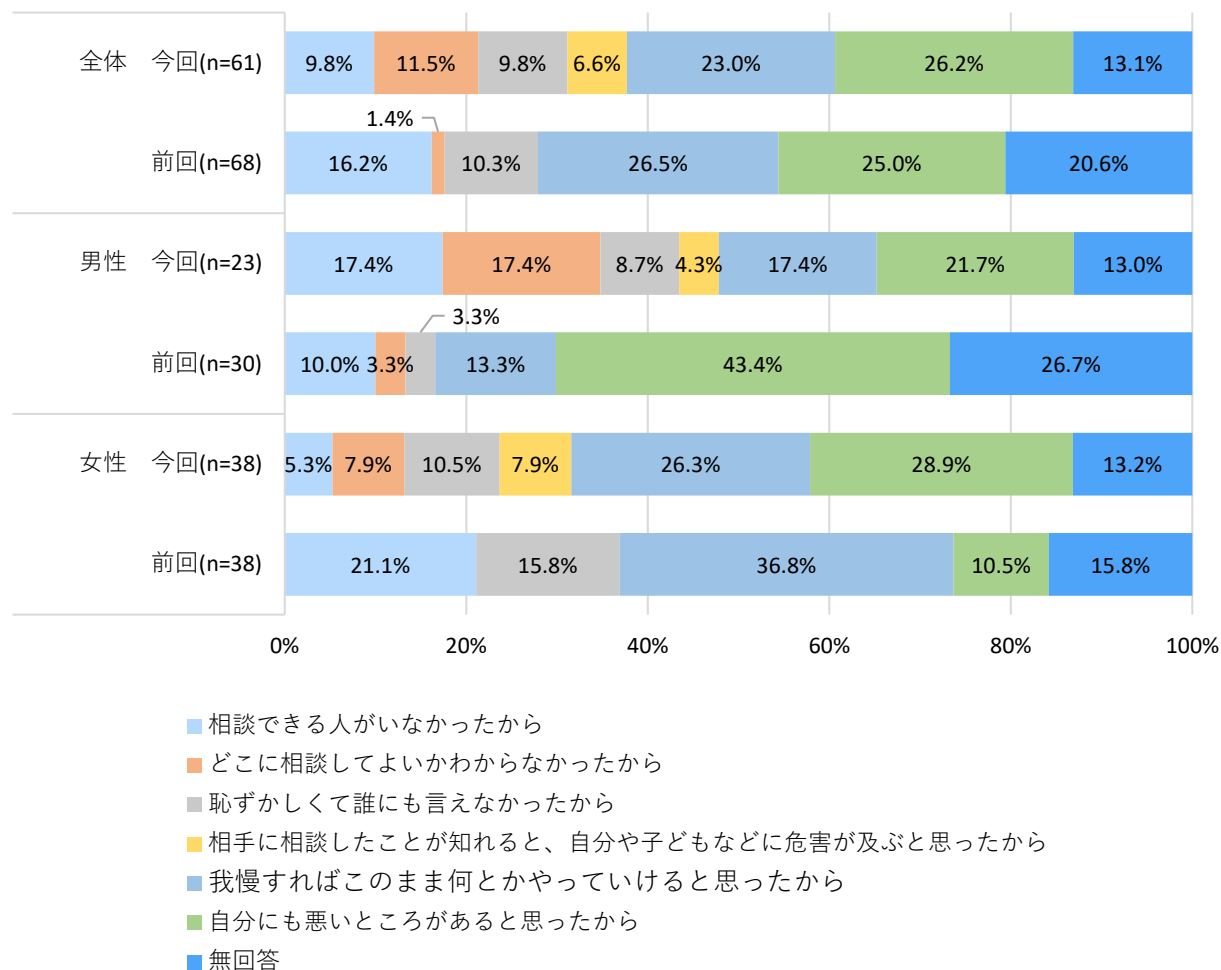
※相談先の年代別の状況



- 1. 友人・知人
- 2. 家族・親戚
- 3. 医療関係者(医師・看護師)
- 4. 警察
- 5. 公的機関の相談窓口(女性相談センター、福祉事務所、法務局、市役所など)
- 6. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)
- 7. 相談できなかった
- 8. 無回答

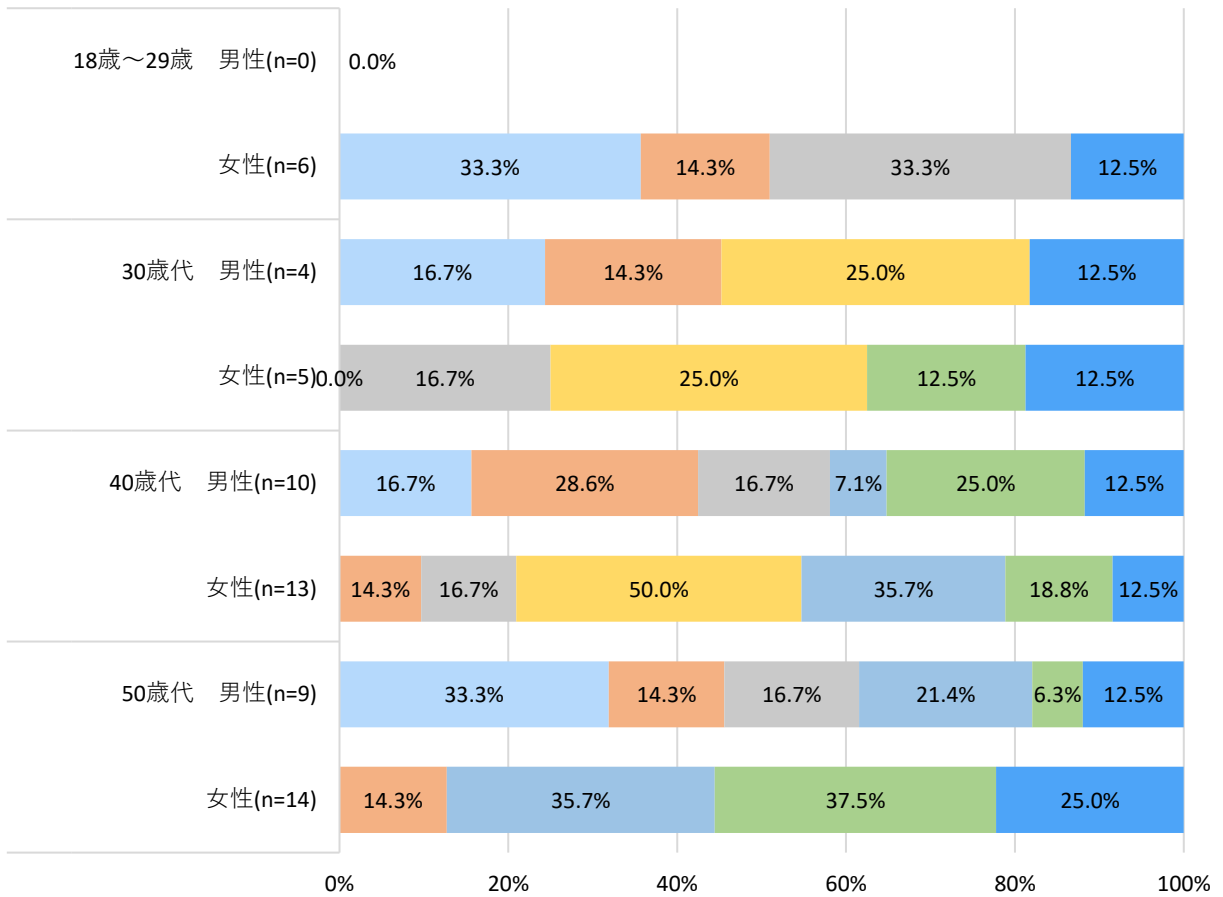
(3) 相談できなかった理由

問 18-③ 「相談できなかった」理由として、最もあてはまるものは何ですか。
【〇は1つ】



全体や性別で見ると「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」や「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が高く、暴力に対し我慢してしまう傾向があり、適切な支援につながっていない現状が見受けられる。

※年代別の状況

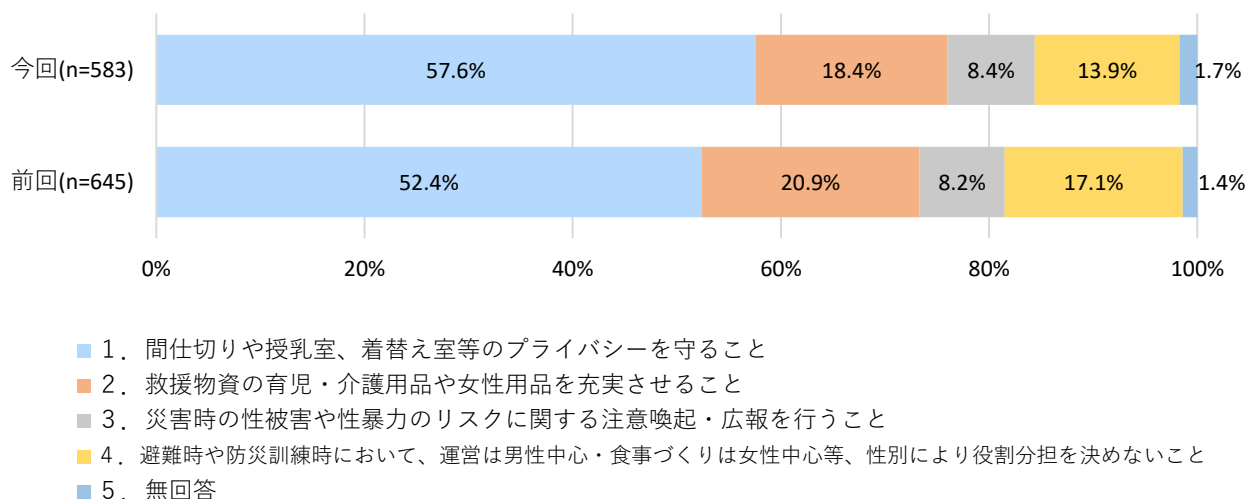


- 1. 相談できる人がいなかったから
- 2. どこに相談してよいかわからなかったから
- 3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 4. 相手に相談したことが知れると、自分や子どもなどに危害が及ぶと思ったから
- 5. 我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから
- 6. 自分にも悪いところがあると思ったから
- 7. 無回答

5. 防災と男女共同参画について

(1) 避難所運営などにおける女性への配慮や支援

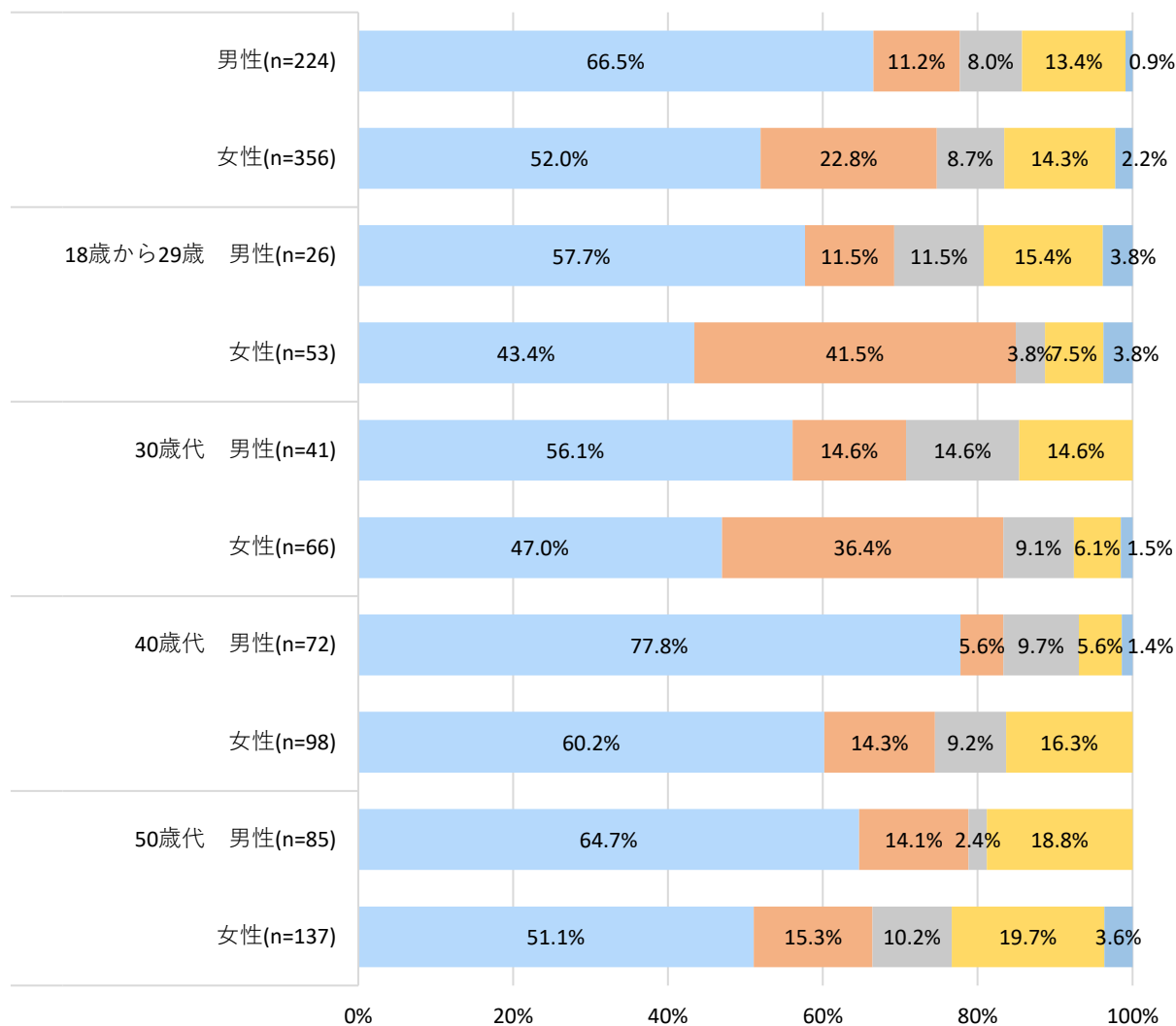
問 19 「男女共同参画の視点」に基づいて、災害時の避難所運営や対応でどのような配慮・支援が最も必要だと思いますか。【〇は1つ】



女性のプライバシーに配慮した「1. 間仕切りや授乳室、着替え室等のプライバシーを守ること」(57.6%)が前回調査と同様に最も割合が高く、次いで「2. 救援物資の育児・介護用品や女性用品を充実させること」(18.4%)の割合が高い結果となった。

「育児・介護用品や女性用品の充実」の割合は、特に18歳から30歳代の女性に多く、災害時の避難に際し、若い世代の女性は避難環境の整備と物品の充実を希望していることが見受けられる。

※性別・年代別の状況

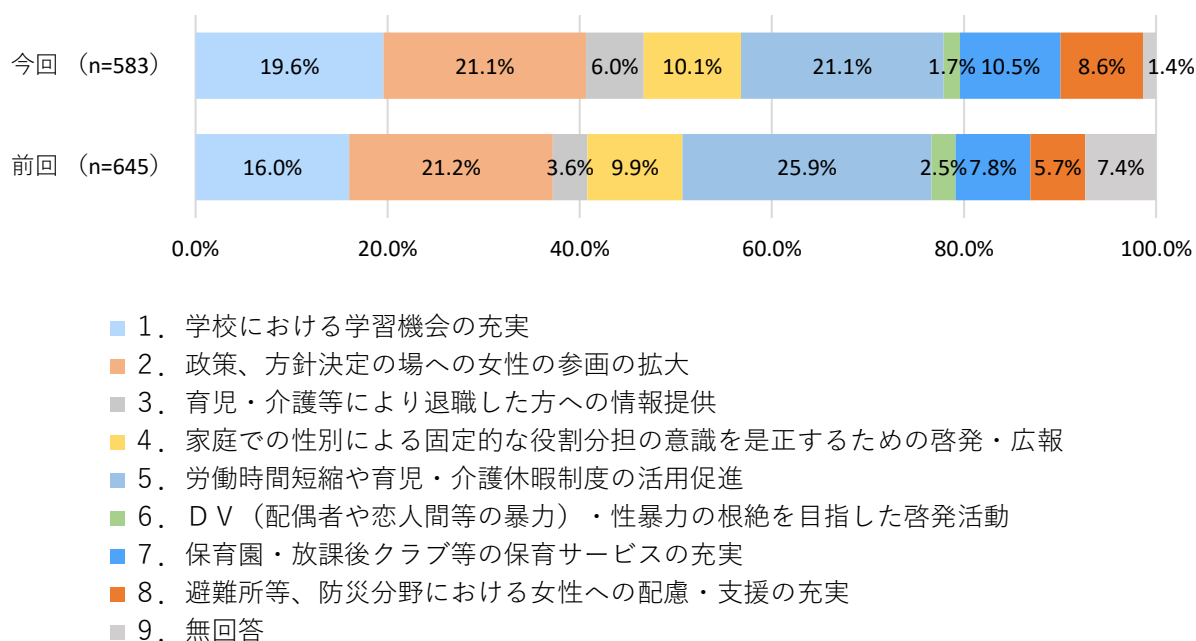


- 1. 間仕切りや授乳室、着替え室等のプライバシーを守ること
- 2. 救援物資の育児・介護用品や女性用品を充実させること
- 3. 災害時の性被害や性暴力のリスクに関する注意喚起・広報を行うこと
- 4. 避難時や防災訓練時において、運営は男性中心・食事づくりは女性中心等、性別により役割分担を決めないこと
- 5. 無回答

6. 男女共同参画の推進について

(1) 行政が積極的に取り組むべきこと

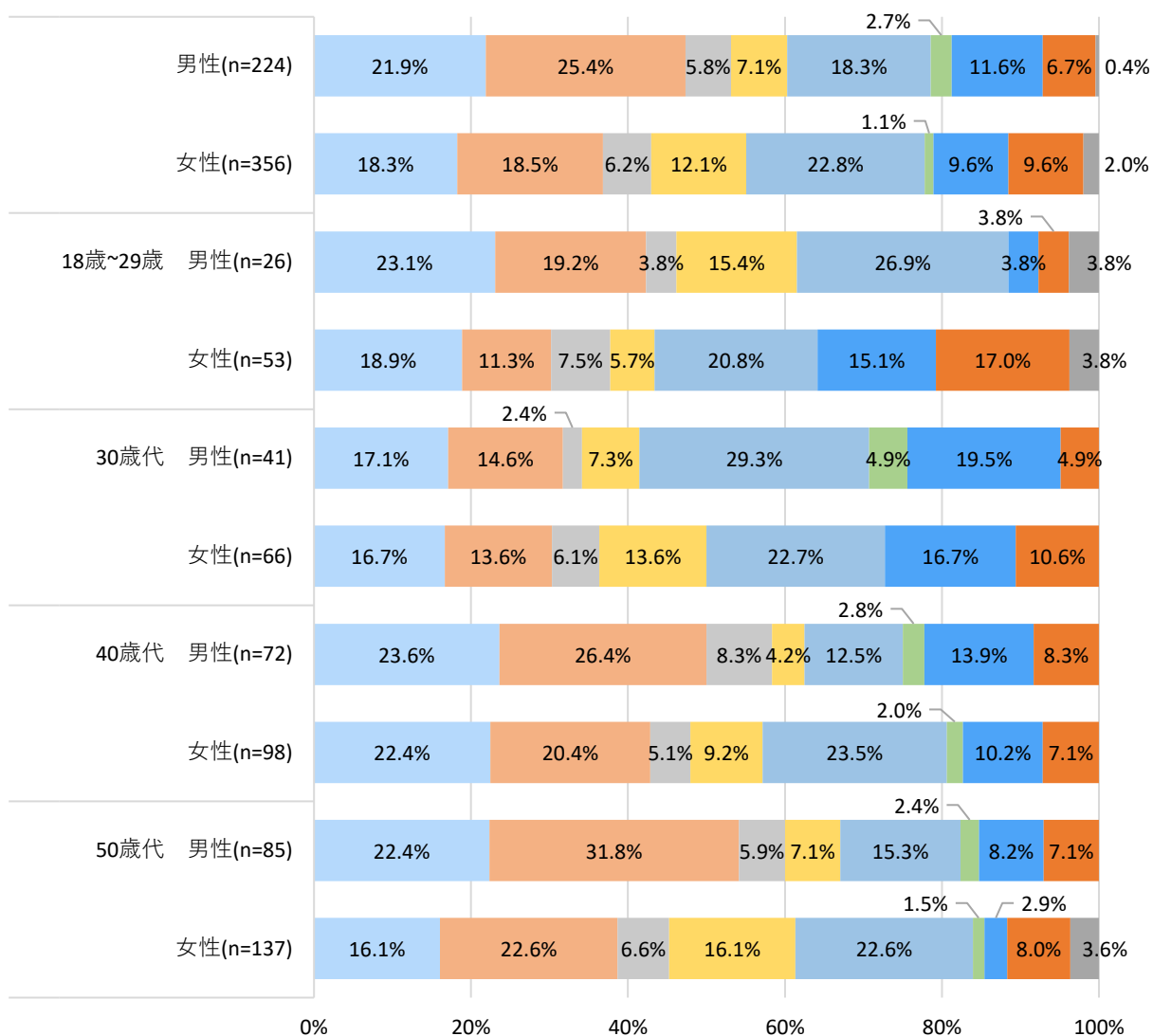
問 20 あなたが、男女共同参画を推進するために行政が最も積極的に取り組んだほうがよいと思うものはどれですか。【〇は1つ】



「2. 政策、方針決定の場への女性の参画の拡大」(21.1%)と「5. 労働時間短縮や育児・介護休暇制度の活用促進」(21.1%)の割合が最も高く、次いで「1. 学校における学習機会の充実」(19.6%)の割合となった。

政策や方針決定の場への女性参画を求める声は、問8の男女平等感において「男性優遇」と感じる割合が高い結果や、問14の女性の社会参画が遅れている原因として「男性優位の組織運営がなされている」の割合が高い結果にも表れており、男女共同参画を進めていくうえで、力を入れて取り組むべき政策を示している。

※性別・年代別の状況



- 1. 学校における学習機会の充実
- 2. 政策、方針決定の場への女性の参画の拡大
- 3. 育児・介護等により退職した方への情報提供
- 4. 家庭での性別による固定的な役割分担の意識を是正するための啓発・広報
- 5. 労働時間短縮や育児・介護休暇制度の活用促進
- 6. DV（配偶者や恋人間等の暴力）・性暴力の根絶を目指した啓発活動
- 7. 保育園・放課後クラブ等の保育サービスの充実
- 8. 避難所等、防災分野における女性への配慮・支援の充実
- 9. 無回答

令和7年度 男女共同参画に関する意識調査

報告書

令和8年3月

発行 山鹿市 総務部 人権啓発課 男女共同参画推進室
〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番地 3

T E L 0 9 6 8 - 4 3 - 1 1 9 9

F A X 0 9 6 8 - 4 4 - 0 3 7 3

Eメール jinken@city.yamaga.kumamoto.jp